小林さんちのメイドラゴン

クール教信者
Coolkyousinnjya

8

ACTION COMICS

The maid dragon of Kobayashi-san

小林さんちのメイドラゴン

The maid dragon of Kobayashi-san

クール教信者
Coolkyousinnjya

8

ACTION COMICS

もくじ

第69話 小林とカンナの父 …… 005
第70話 カンナと公園 …… 017
第71話 小林さんと手紙 …… 029
第72話 イルルと偵察 …… 041
第73話 カンナと書き置き …… 057
第74話 カンナとオ川 …… 073
第75話 カンナといたずら …… 089
第76話 小林と裏技 …… 105
第77話 カンナとキムンカムイ …… 123
第78話 カンナの父とキムンカムイの娘 …… 141

おっさんが
カンナちゃんの
父親…

じゃあ…

カンナちゃんを
迎えに来たの…？

それは…

それは私が
順を追って
説明しましょう

こういう説明は
面倒だから任せるぜ

アーザード

ﾋﾟﾘｯ…

誰？

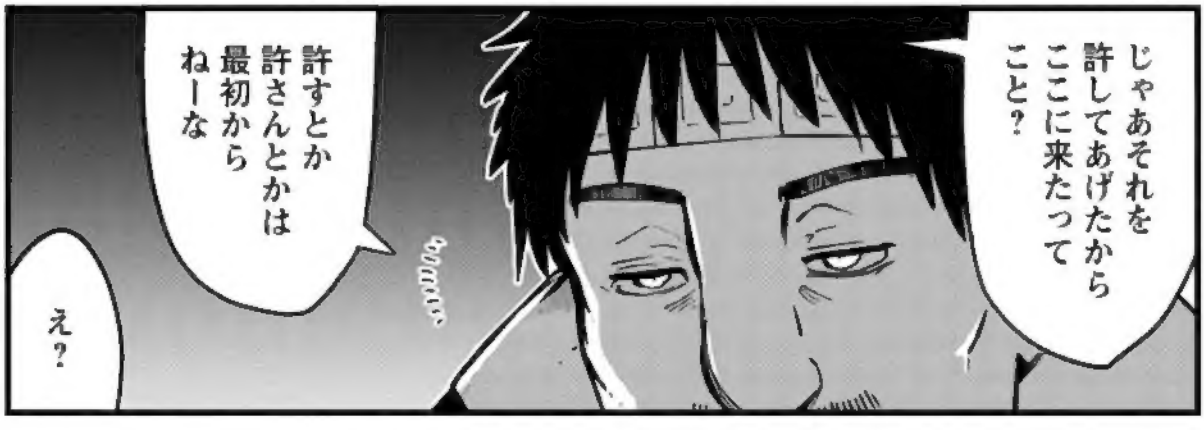
おう来たか
わが軍の
軍師様よ

第69話 小林とカンナの父

龍玉…
というものを
御存じですか？
！
？

ドラゴンが
何百年もかけて
力を封じ込めた
道具ですね
戦闘で使えば
強力な力を
得ることが
できます
なんでか
知らねぇが
カンナが
それを
壊しちまった
闘いで
切り札にも
なり得る
ものだ
責任を取れと
仲間がうるさいんで
カンナを野に放った

まさか次元を
抜けてこんな
ところまで
来ているとは
思いませんでしたね
まったくだ
それが
カンナちゃんが
ここに来た
原因のいたずら…


じゃあそれを
許してあげたから
ここに来たってこと？
許すとか
許さんとかは
最初から
ねーな
え？

必要になった
そういうのが近いか
必要…
だぁ？
今までは領内で百年後の大戦まで力を蓄えてるだけでよかったのですが…
事情が変わりました

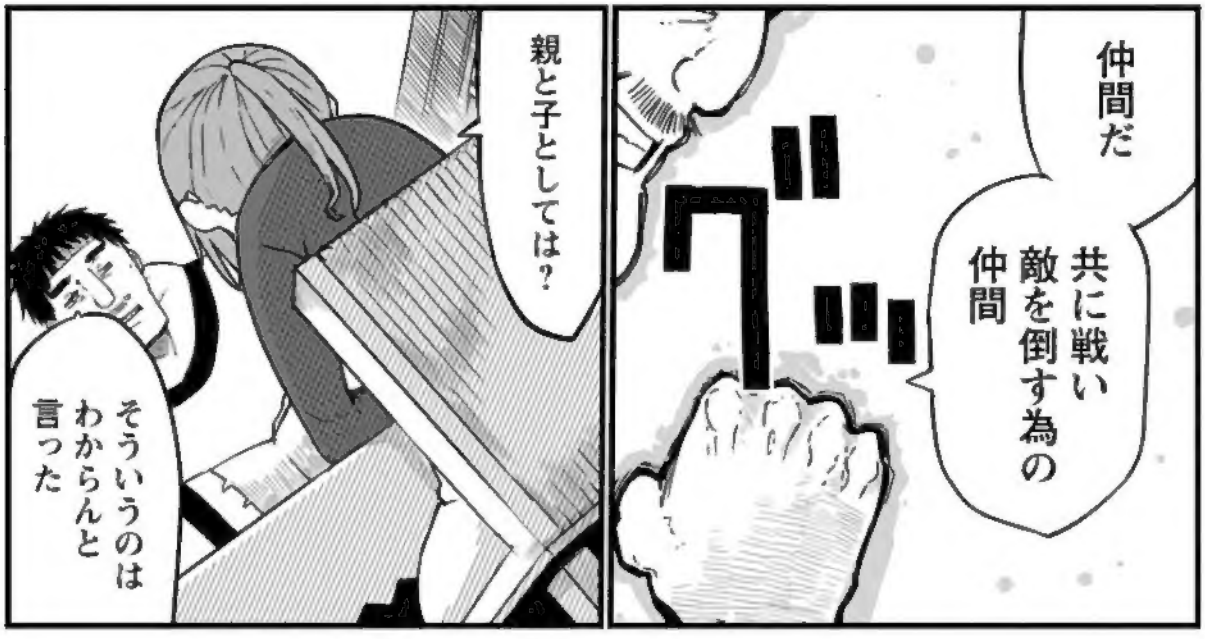
領の近くに調和勢が拠点を作って小競り合いが始まったのです
やってきたのは白竜公ルミネース…厄介な相手です
ほー
そりゃまた相当強いのがきましたね

俺でも手こずる…
だから龍玉がいる
それはカンナが壊してしまったんでしょう？
ええ…ですが

壊してしまったと
いうことは
龍玉の力がカンナ様に
流れ込んでいる
はずなのです
それを抽出します
用が
あるって
それ？
ああ

つーわけでよ
カンナを
連れて帰るぜ
ニッ
今まで
面倒を見て
くれた礼は
ほしかったら
言ってくれ

何を
黙る？
わからない
ところが
あったか？
いや…
事情しか
わからなくてさ
カンナちゃんのこと
どう思ってるの？


仲間だ
共に戦い
敵を倒す為の
仲間
親と子としては？
そういうのは
わからんと
言った

……
なんで
睨むんだ？
人間の価値観から
離れすぎて
いますか？
そうなのか？

人間の価値観に
寄り添い
その関係性や
生き方に同調し
歩みを揃える…
ここにいる
トール様は
そうなの
でしょう
恐らく
カンナ様も
あなたは
そういうの
わかるんだ
ニコ…

俺はただ
カンナと共に
闘おうと
いうだけだ
さぁ カンナを
出してくれ
カンナは
小学校に
行っています
なんだよ
そりゃあ
向こうと
全然違うよな
ここ

人間の子供達と
学んだり
遊んだりする
場所ですよ
カンナはそこで
大切な友達を
作りました
大切…

つまりあなた方は
カンナ様が
大切なものを
こちらの世界で
学んだので
我々には
渡したくないと？
しかし
それは
カンナ様が
決めること
でしょう

カンナ様は
キムンカムイ様に
必要とされたいから
いたずらを
繰り返していたと
いいます
ならば必要と
されている今が
まさに願いが
叶った時と
いえるのでは
ないですか？
なんだ…
こいつ一体…

私はまず
あんた方を
カンナちゃんに
会わせたく
ないんだけどね
ん？
そりゃ
なんでだよ
！
傷つくって
わかるからだよ
人間の見方だと
あんたは放任
ネグレクトの
最低な親だ

俺は
人間じゃ
ねぇ
ああ…
あんたはきっと
人間より頭も
力もずっと
強いんだろう
だからこそ
カンナちゃんの
求める
いろんな情を覚える
こともできたのに
闘いに能力を
全部使うのか？

……
何が
言いたい？
人間の
価値観 覚えて
出直してこい
この
クソ野郎

ピリリ
ピリリ
キムンカムイ様
穏便にと
申したはずです
小林様も
おやめください
我が主は争いに
なれば容赦しない

怖じねぇか…
終焉帝に
啖呵を切った
だけはある…
だが…
その手
緩ませろ
キムンカムイ
！
ぶち殺すぞ

へっ
どうやら
闘った方が
早かった
みたいだぜ
アーザード
俺だって
最初から
こっちの
方が…

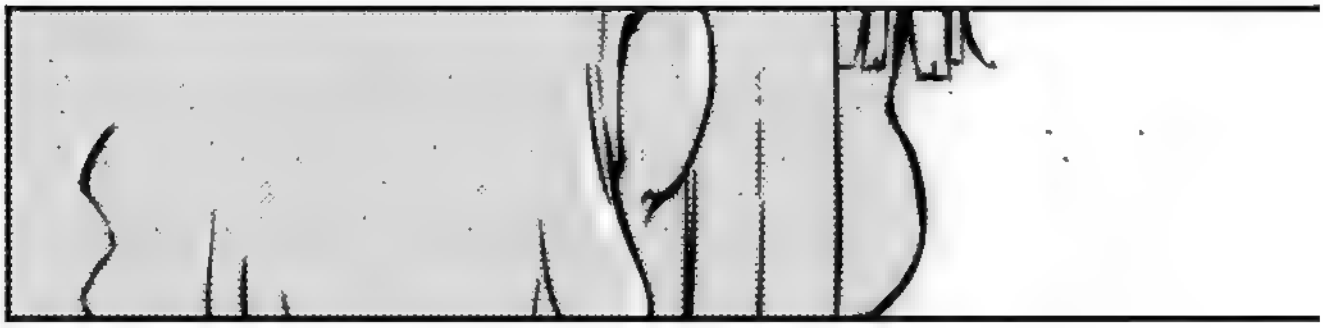
いいえ
こちらが
妥協
しましょう
！
何？
我々は
最初から
龍玉さえ
手に入れば
いいのです
それは
争わずとも
できます
カンナ様を
手元に
置かずとも

この世界で
龍玉の力を
抽出して頂く
カンナ様に
頼んで
頂けますね
小林様
争いの為の
道具でしょ？
そんなの…
やる
!?
トラ
トラ…
トラ
ただいま
カンナちゃん
お父さん…
私…
やるから…
褒めて

元々 お前が壊したものなのにか？
甘えるなよ
仲間としての責任を果たせ
戦果をあげたら労ってやる
ズン…
ズン…
用件は済んだ
帰るぜ
待て！

そりゃないだろ
…残念だぜ
酒の趣味は合うのに気は合わなかったようだ
おまけに俺と満足に闘う力もねぇなんもできねぇよお前には
!!

では後程
抽出について
ご連絡いたします
失礼を
ガチャ…



結果を見れば
これまで通り
なのかも
しれない…
ポン
だけど
このままでは
終わらない…
今日は外食
行きましょう！
終われないと
思った
ステーキ！

第69話／おわり

はぁ～～～

飲みの席だぞ小林さん
おいしくいこう！
それを言うなら楽しく
ごめん…
事情はトールから聞いている
カンナ…落ち込んでいるのか？

いや…落ち込んでいるというより…
キレてる
？
むう？

第70話 カンナと公園

ハグ
ハグ!!
ハグ!!
ムシャ
ムシャ
モリモリ
パックパック

食べすぎだぞカンナ!!
元気なのはいいですが元気を出す手段がヤケ食いだなんて…
むしゃ
むしゃ
小林さんも止めるに止められませんよ まるでエルマ
むしゃ
久しぶりにあってあれはない!
怒り心頭!
怒髪天(どはつてん)の逆鱗(げきりん)ベタ触り!!
あらら…このままでは小林さんのお財布がピンチですね
……本当なのか?
何がです?

アーザード…
奴がいたこと
知ってるんですかイルル？
彼…ドラゴンじゃなく魔法使いのようでしたが…
昔 私がいたドラゴンの群れの中にもいた…
その時も群れの長は奴の意見に頼っていた
その群れは？
群れの長の思想が過激化しすぎて皆抜けた…
長についていった竜達はどこかの戦いで深い痛手を負ったはずだ…
アーザードはいなくなったから死んだと思っていた
はぇ…さて…
……
ザッ…
ザッ…
……調べるか？
バイトがあるでしょう？
空いた時間でやっとく

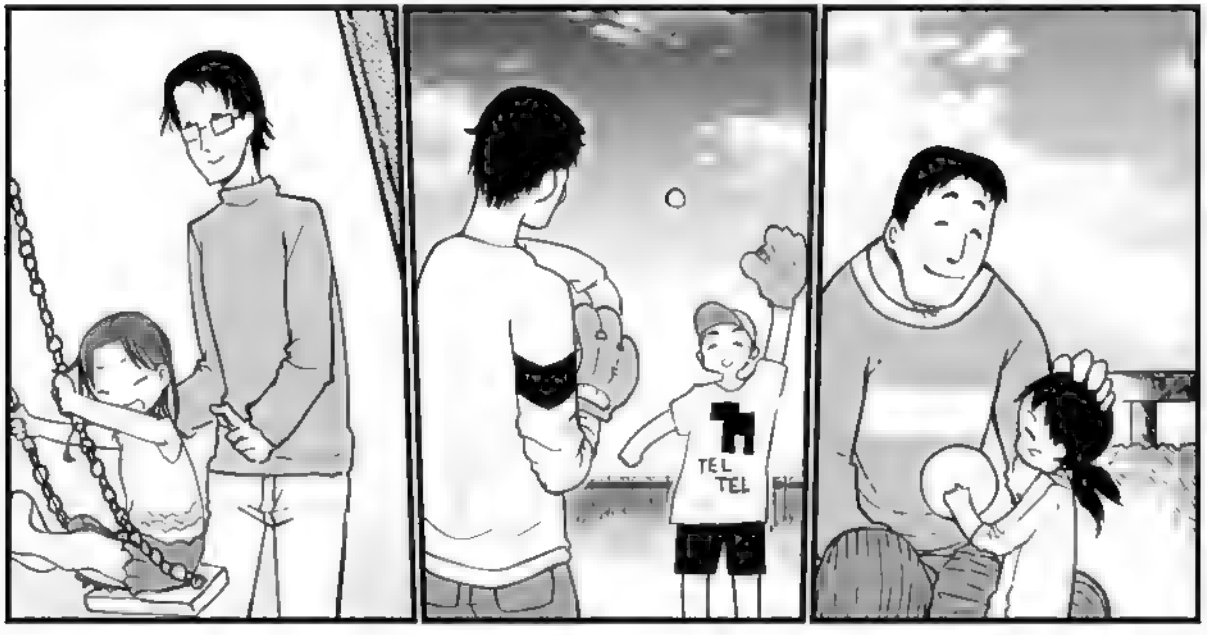
しかし らしく
ないね小林さん
え？
カンナちゃんに
自宅で龍玉と
やらを作らせる
いつもなら
最初にその
提案をするのは
小林さんだ
そうかな…

カンナちゃんを
人間の子供として
見ている
カンナちゃんも
そう見られたい
なるほどファフ君が
言ってた人間ごっこ
ってこれか
のめり込み
すぎている？

違うよ…
本当にその日々を
愉しむならもっと
本気になるべきだ
ガチ勢って
そういう
ものだろう？
そのおじさんが
いらないというなら……
君がカンナちゃんの
お父さんになって
しまえばいい

父親…
母親ではなくて？
あこれは失礼
ただいまー
コバヤシ！
甘いもの買ってきた!?
ガオオ
エルマみたいになってるよ
オオォ
ヘブシッ!!

コバヤシ
明日休み？
遊びに
連れてって！
いいよ
やったー
カンナは
お話がある
そうです
どうぞお二人で
行ってきて
ください
話？
おぼろづか公園
公園で
いいの？
もっと
遊園地とか…
遊園地は
行った
ばっかり
退屈
じゃない？
このまま
こうしてて…


TEL
TEL

休日
だもんな…
コバヤシ…
！

私…
コバヤシと…
トール様と…
才川にイルル…
皆…
いるから…
大丈夫…
平気…
あんな
お父さん
知らない

強いな…
私の方が
気をつかわれ
ちゃってる
なら私も
ちゃんと
向き合うか…
ごめんね
？
カンナちゃんの
お父さんに悪口
言っちゃったよ

エゴが
でちゃったのかも…
普通の…人間としての
家族をカンナちゃんが
求めてるの知ってたから
そうあってほしいって
でも…
あのおっさん
わかんないってさ
あったまくる!!
ねー

だけど私も
最初は
わからな
かった
どのドラゴンにも
ある 人間に興味を
持つタイミング…
カンナちゃん
にもあるの？
……
…寒かったの

とても寒い
風が吹いた日…

どこか
あったかい
場所…

ニニ

人間は
ああやって
寒さを
凌いでるんだ

あったかそう
だったから
私も真似した

ぴと

?

そしたら…

本当に
あったかくて…

身体だけ
じゃなくて…

きっともっと
あったかくなる
方法があると思った…

ギュッ
私は
冷え性なのが
残念だな…

そろそろ
帰る…
トッ
龍玉を
作らないと…
器に力を
いれないと
いけないの
テッテッ
先帰ってて
いいよ
私はゆっくり
帰るから

何度か
命を賭けて
しまって
常人と感覚ズレ
したかなとは
思っていた
だけど私自身が
強いわけでは
決してないのは
わかっている…
か弱き女だ…
おもちゃでも
買って帰るか…

小林…
お前どうする
気だ

え？
何故ここに
新作ゲームの
買い出しだ

どうするって？
現状維持…
それなら
この世界の
秩序と仲間が
今の生活を
守ってくれる
だろう…

だが お前は
キムンカムイの
価値観にまで
期待している
傲慢(ごうまん)だと？

できる
はずがないと
言っている
……

ここで
気持ちを
我慢したら
同じ答えが
言えなくなる

以前
聞いたよね？
ドラゴンと
対等の
つもりかと
ああ…

力が
足りないと
言っている
いや本当
それだけ
困ってる
なら

強くなって
みるのは
どうかな
小林君？
協力するよ

・・・・・
何故ここに？
休日に上司に
会うの気まずい
っスわ
翔太の試験合格の
ご褒美を買いにね

第71話 小林さんと手紙

時に納得するという感情は満足感であり解放感だよ
知識で得る者もいれば武力で得ようとする者もいる
人間は結果を積み重ね積み上げたものによって死という最後の結果を納得する為に生きている
——と考えるのが私の持論だ
だがその納得を得られる者がどれだけいる？

ドラゴンに価値観を加えるという行為はその人生最後の納得を得ることと同価値だと私は考える
死ぬほど努力しないと無理ってことですか？
人間を辞めるという手もある

ほんの200年ほど修行すれば君の才能なら戦える程度にはなるはずだ
か弱い女の子の私にそんな才能が？
いやーでも人間辞めるのは嫌だなぁ
なら三日修行してワンハンでやっつけるコースでいこう
そんな都合のいいコースが!?

ただ大切な
ものを犠牲に
する必要はある
結局そういうの
じゃないですか
君にとっては
都合がいい
犠牲かもね
胡散臭い人は
すぐそういう
ことをいう

まぁ
聞きなさい
なるほどぉ…
それでいいなら
まぁ犠牲に
しちゃおうかな

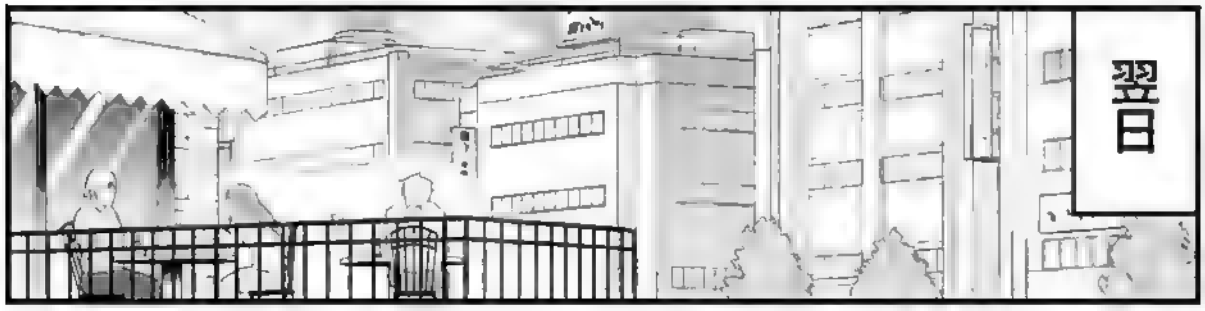
君は独力で
いけるだろうから
本だけ渡そう
おっとこれじゃ
ないな
そりゃ
どうも
防犯ブザーの
代わりにします
…ここ数日
ルコアさん
見ないですけど
いないんですか
ああ…あの方は
傍観勢だから
争いの場では
姿を見せなく
なる
そういえば
イルルが
暴れてた時も
いなかったな

責めないで
あげてほしい
長い間 干渉を
してもしなくても
後悔をしてきた
結果なのだろう
そんな気は
ないですよ
いろいろ
ありそう
ですもんねぇ

私にとっちゃ
思惑の見えない
専務の方が
気になりますけどね
私かい？
私はこの区域
担当の守護者
だからね

守護者？
この一連の件が
終わったら
お話しよう
おっと
本があったよ

この本…たった一冊で
200年かけて
練り上げた技術が
書かれているんだって
200年…
人間は一人では
長く生きられないけど
意思や考えや価値観を
バトンタッチしながら
積み上げていく…
相手に伝える
言葉や想いだって
効率化してる
はずなんだ
だから私は
この世界の日常で
得たものを使って…
カンナの親父さんに
伝えてみようと思う



テッテレッテレッテレ

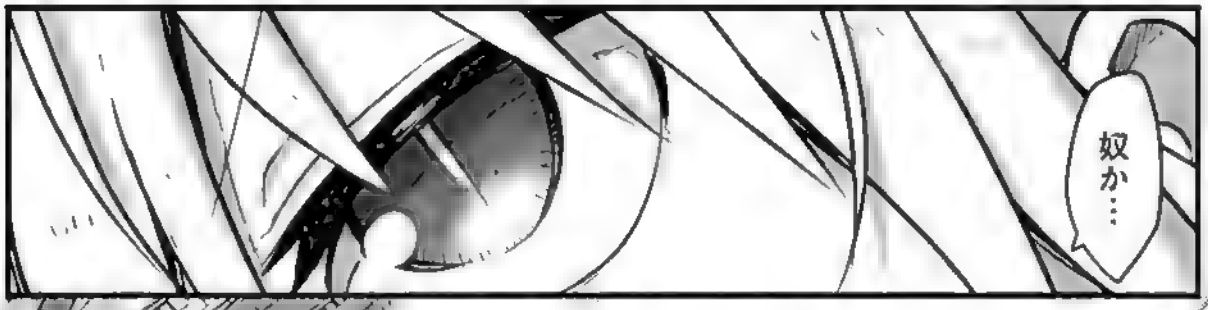
今の我が家の事情は知ってますね？
ああ だいたいは小林さんから聞いている
キムンカムイが龍玉を持ち出そうとしたのは敵にルミネースがいるからです
何故 闘和勢が積極的に動く？
はて…

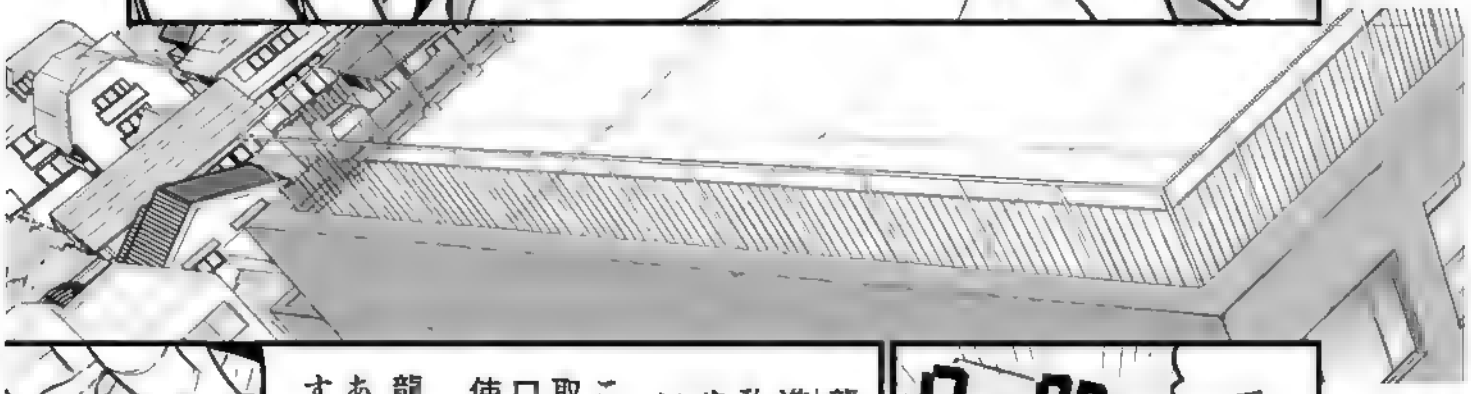
元々ルミネースは穏健派だ
向こうから仕掛けたり混沌勢が暴虐を仕掛けたりしなければ何もしない
キムンカムイとて100年後の戦争まで力を蓄えていたいから無用な争いや暴虐で目をつけられるような波風は立てないでしょう

このままカンナが龍玉を作ってキムンカムイに渡してしまえば戦いが始まるでしょう
ああ…

争いが一度始まってしまえば過激派に歯止めが効かなくなる
双方 深い痛手を負うことになるぞ
深い痛手…ね
何か引っかかるのか？
ええ…なるほど…

イルルの話と状況は同じ…
ついでに竜達はどこかの戦で深い痛手を負ったはずだ…
戦いを煽る者がいる


奴か…



できたー!

龍玉作りの進捗報告と称して細かくやりとりしていこう
これは部長が取引先の女性を口説くのに使った手なんだ
龍玉はこちらにあるので無下にはすまい!!
おー
まるで女神を口説くヘルメスみたいですね

トール
はい
頼める？
はい
でぇ？
手紙ねぇ
できてから
送ってくれりゃあ
いいんだがなぁ
酒のうまい飲み方とか
書いてあるみたいですよ
ほー
では私は
これで
待ちな

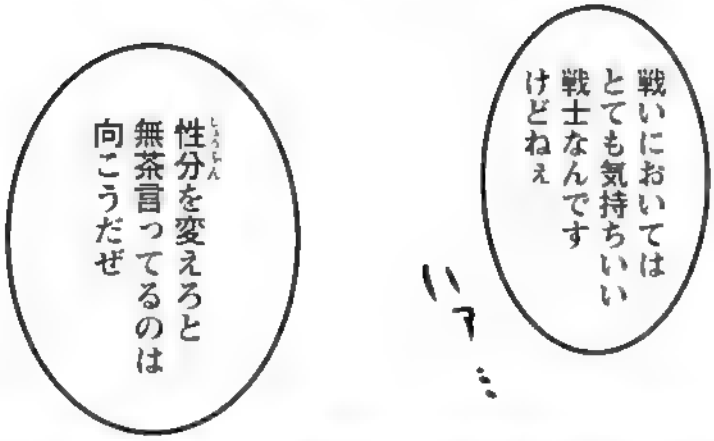
なるほどなぁ
進捗とやらは
ついでで俺についての
恨み言がびっしり
じゃねぇか
こうも激情を人間から
叩きつけられたのは
初めてだぜ
！

カンナにしても
学校とかいう
ところの出来事や
才川…？って誰だよ
変な奴の紹介だの
共に戦わずに作った
友を信頼してやがる
ん？この
酒のうまい飲み方
っていうのは
いいねぇ今度
試してみるわ

うしっ
返信だ
小林に
渡しな
……
まともに
読むん
ですね
ん？そりゃ
当たり前だ

人間に
向けられたもんから
逃げ出す俺じゃねぇ
言いてぇことが
あるなら全力で
ぶつけてくりゃいい
全部 受け止めて
返してやらぁ

あなた…


戦いにおいては
とても気持ちいい
戦士なんです
けどねぇ
性分を変えろと
無茶言ってるのは
向こうだぜ

で
返信が
これか…
……
よくわかんね
酒の飲み方のことは
ありがとよ!!
クソオヤジ!!
ダメオヤジ!!

カンナちゃん
さらに返信だ!!
書きたいこと
全部書いちゃえ!!
うおーう!!
そして…

その後も
効果があるのかも
わからない…
進捗報告という
雑談が続いた

また手紙が
来たのですか
ああ
つい
読んじまう
毎度こっちが
気になる事も
書くもんだからよ

あなた様は
大将です
あまりこのような
ことに時間を
使われては
わかってる
わかってる

ただ現状
ルミネースの方とは
睨み合いだ
向こうが
縄張りに深く
踏み込んで
こねぇなら今は
合わせとくさ

俺もそのうち
こいつらのこと
わかるように
なるのかねぇ
ははは

わかるわけねぇだろ

あいつ…
どこへ…
ガサッ…
ザッ
ザッ

あ 見て！
返信が今回
少し長いぞ!!
おお
おお
おお
でもお酒の
ことばっかり!!
サケオヤジ!!

大分たまりましたね
トントン
第72話 イルルと偵察

……
私はこの方法…好きですが…
これでいけるのでしょうか？

違うよトール
もうできてる
え？
私はただ紙ごしにわかりやすい話がしたかっただけ

あのおっさんの立場やら思想やら受け取り方やら…
背負うものやらね…
私が何か言える段階は越えてる

それでも
続けるのは
カンナの為
ですか？
トールの為
でもあるよ
んなー!?

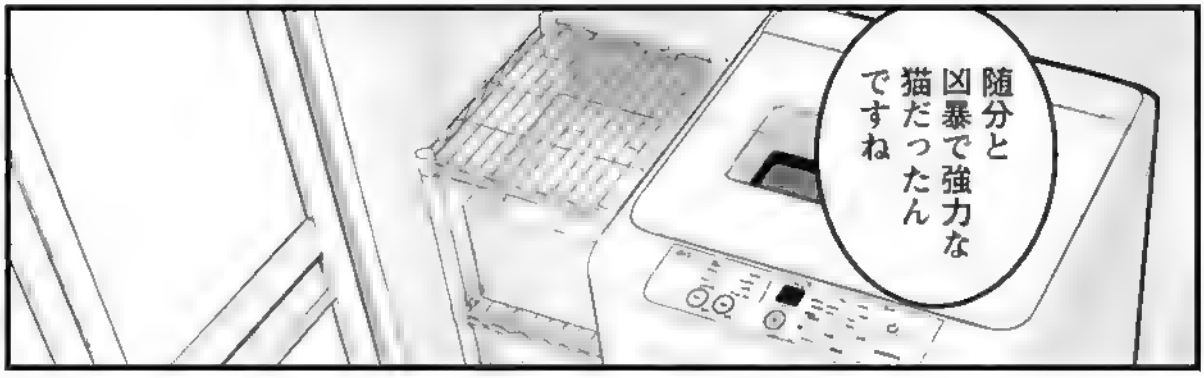
トール達との
日々も
この手紙も
積み重ねた
厚みに意味を
持ちたい
無視するなら
その意味を
おっさんが理解
してから無視
しろっての

というのは
建前で
私のエゴだ
小林さぁん
ただいまー
ギィ…
！

……
どうしたの？

あー…
猫と
遊び過ぎた
猫って…

あーもー
そんな汚れて
服はすぐ
手洗いするので
風呂入っちゃって
ください
わかった
？
ピッ


随分と
凶暴で強力な
猫だったん
ですね

あなたが
不覚を取って
手傷を負う
ほどの…
イテテ…
お前から
受けたダメージも
まだまだ抜けて
ないんだぞぉ
それは
失礼…

バイトに
お休みの電話
入れましょうか？
それは
嫌だ
タケには
会いたい
……
何があったん
ですか？

聞かなくても
わかるだろ？
調べていた
ことは
「当たり」
だったんだ
ザブー

見てきたことを話すぞ
私はアーザードがキムンカムイの陣営を出て行ったのを不審に思って後を追ったんだ
ヒュン
あいつどこへ行くんだ
そして奴を追って着いた場所が…
オ
オ
オ
オ
オ
調和勢の軍勢じゃないか…
一体何を話している…
コン
コン

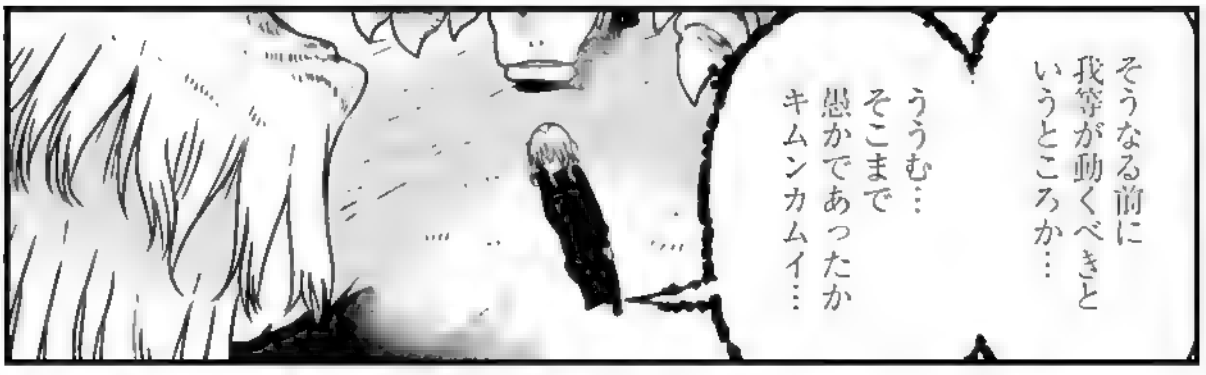
相手は
ルミネース…
ここの総大将か
キムンカムイの
暴虐は
目に余ります

人間を
見つければ
虐待しながら
殺し
自然豊かな
土地を意味もなく
踏み荒らし
汚していく…
私は間者を
しながらも
胸を痛めて
おりました
ふむ…

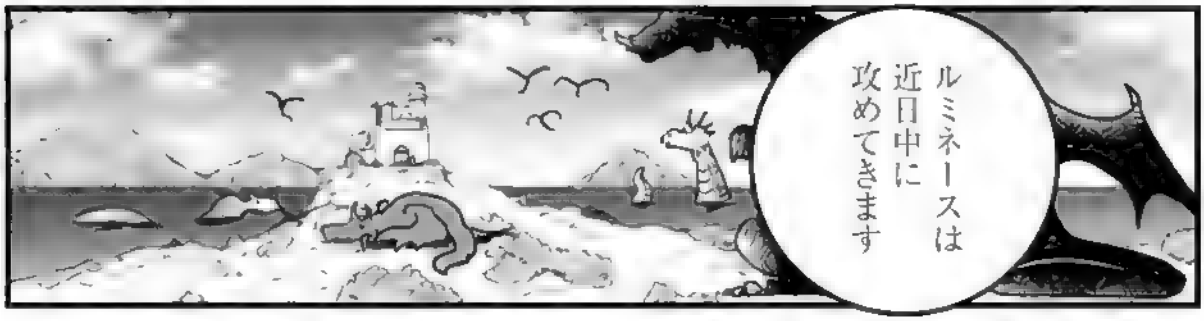
彼等は領土を
拡大しながら
悪逆非道を
繰り返して
いるのです
そうだ…
我等はその噂を
聞きつけこの地に
参ったのだ

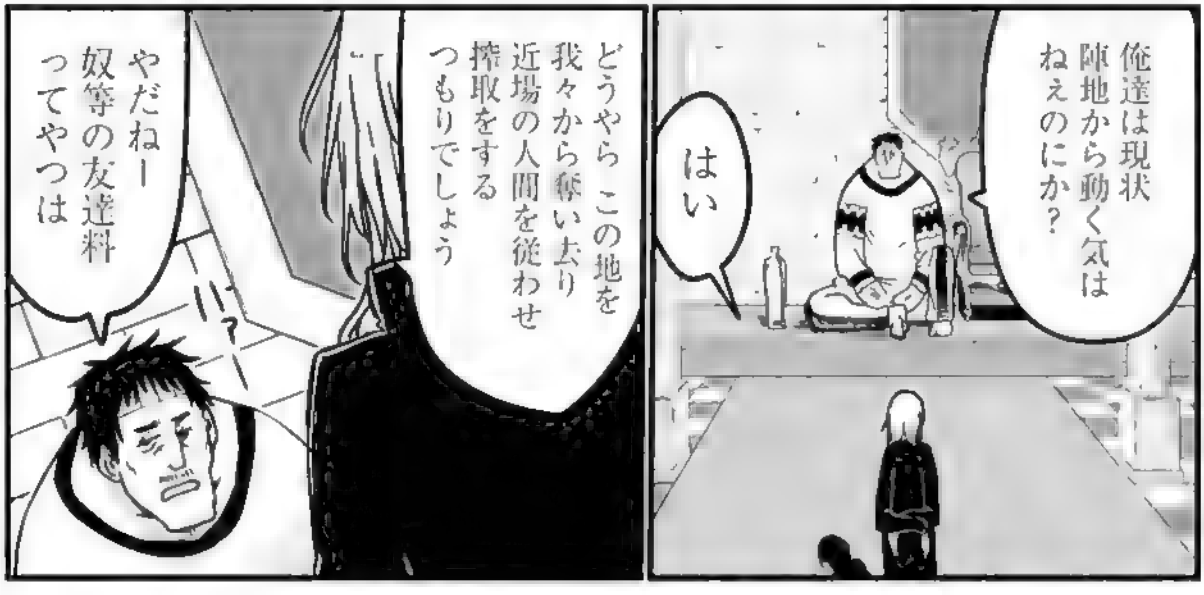
我々は
釘をさす意味で
牽制として
ここにおるだけで
いいと思っていた
だが奴等は
わざわざ
こちらに挑んで
くるのか？
挑んで
きます
勝算がなければ
双方にいたずらに
被害が出るとわからぬ
キムンカムイでは
あるまい

彼等は龍玉を
手に入れ あなた方を
攻め滅ぼすつもりだ
ざわっ…
龍玉だと…！
貴重なものだぞ
このような場面で
使ってくるというのか？
急いだ
ほうがいい…
手に入り次第
あなた方に
襲い掛かる
でしょう…
……


そうなる前に
我等が動くべきと
いうところか…
ううむ…
そこまで
愚かであったか
キムンカムイ…

その情報の裏を
取ったら攻め込む
ことを考える
お前は引き続き
キムンカムイを
見張っていてくれ
わかりました
なんと…


ルミネースは
近日中に
攻めてきます


俺達は現状
陣地から動く気は
ねえのにか？
はい
どうやら この地を
我々から奪い去り
近場の人間を従わせ
搾取をする
つもりでしょう
やだねー
奴等の友達料
ってやつは

戦うとなったら
引く気はねえ！
龍玉が
間に合わずとも
戦ってやる
頼もしい
限りです

微力ながら
お手伝いさせて
頂きますよ
……

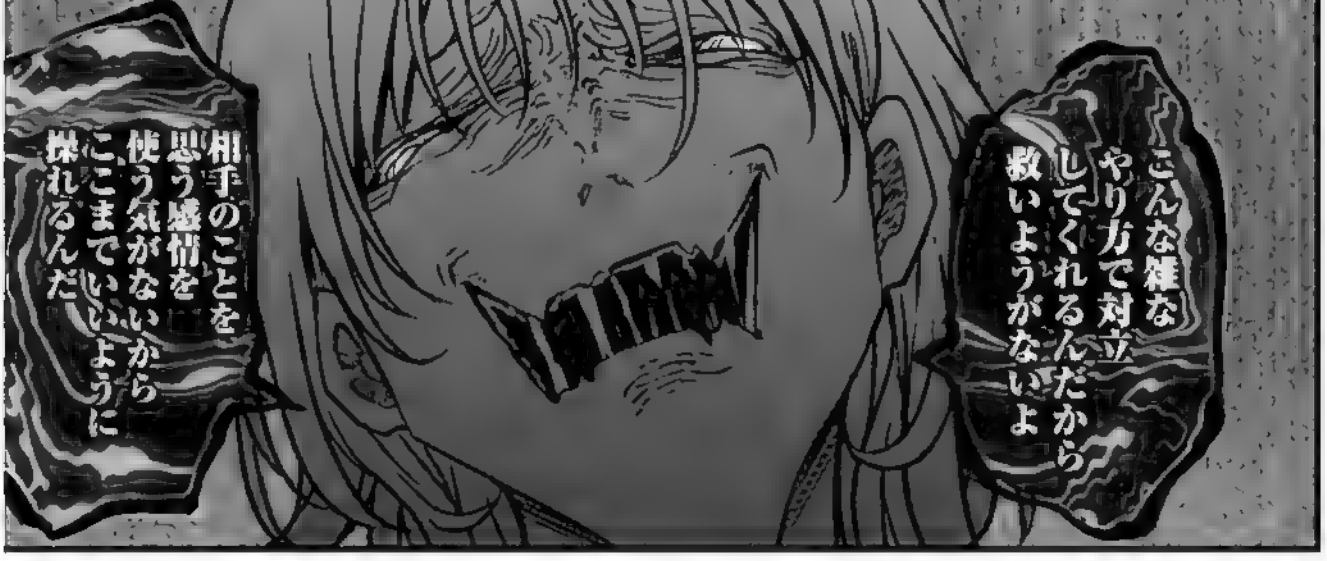
当たりだ！
ガサッ…
両陣営に二重スパイして戦いを煽るなんて…
なんてことを…
とにかくこのことをトールに伝えないと…
異界ゲートの位置は…
!?
ズッ…

異界のゲートを
開く為には魔力を
多く使う…
探知しやす
かったよ
こそこそ
嗅ぎまわる
野良犬に
落ちぶれた
ようだね
イルル

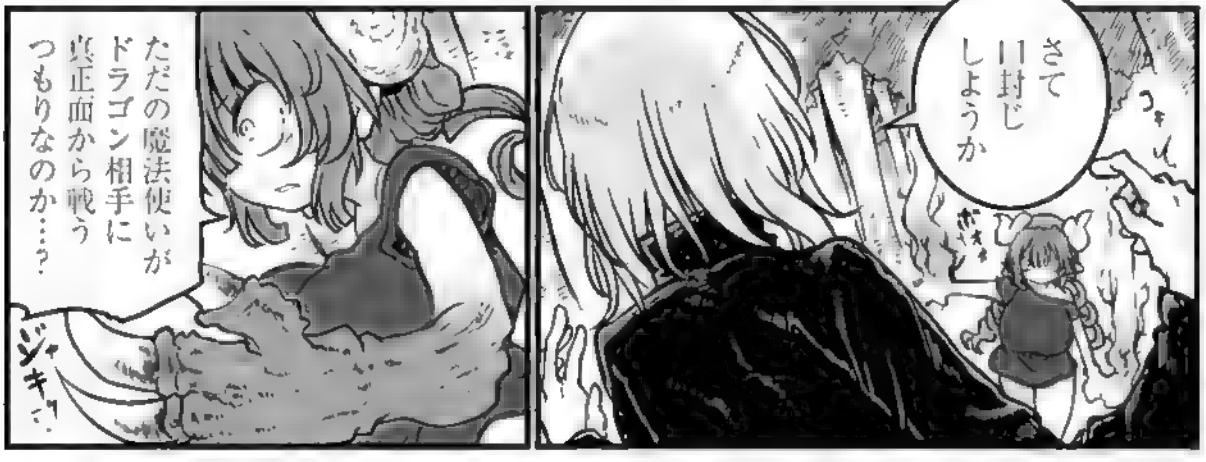
…何故
こんな
ことをする？
戦い好きの
ドラゴンの
台詞とは
思えないな

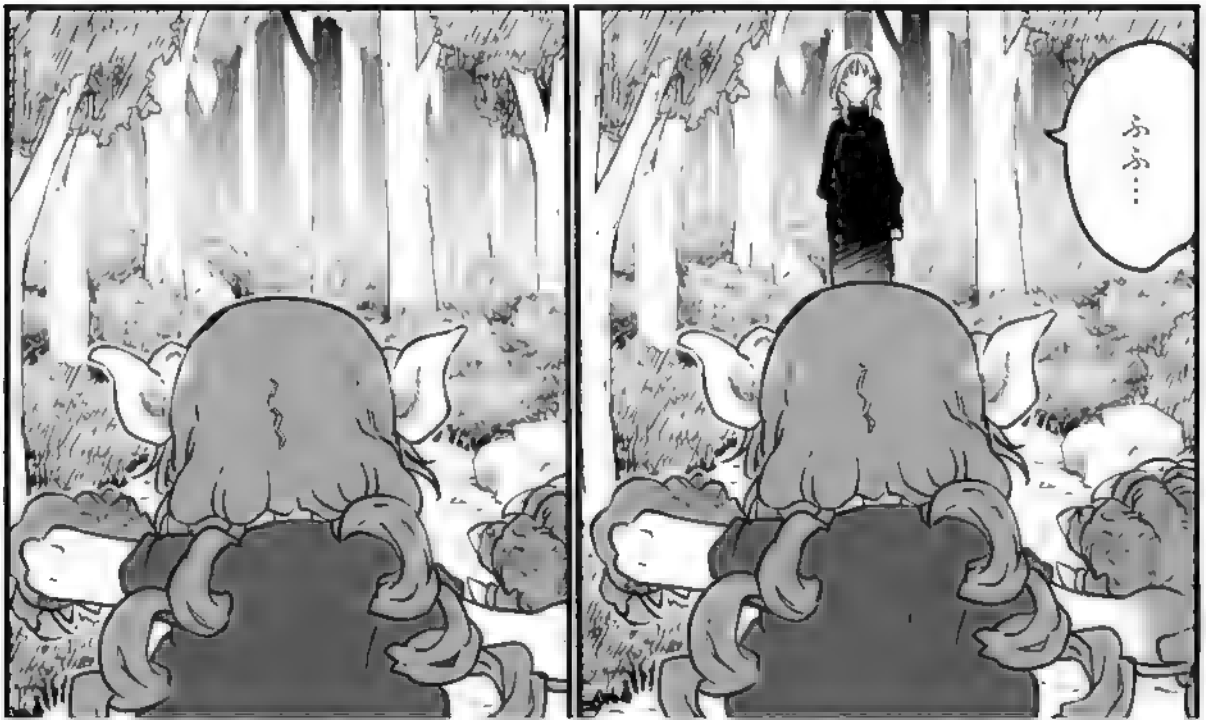
お前らドラゴンが
戦いを求めてるから
与えてやってるだけだよ
逆に理由まで
作ってやってるん
だから感謝して
ほしいくらいだ

何故こんなことを
するかだって？
好きなんだよ…
ドラゴンが
苦しむ姿が
ズタボロになって
死んでいけば最高だ


こんな雑なやり方で対立してくれるんだから救いようがないよ
相手のことを思う感情を使う気がないからここまでいいように操れるんだ

むっかぁ

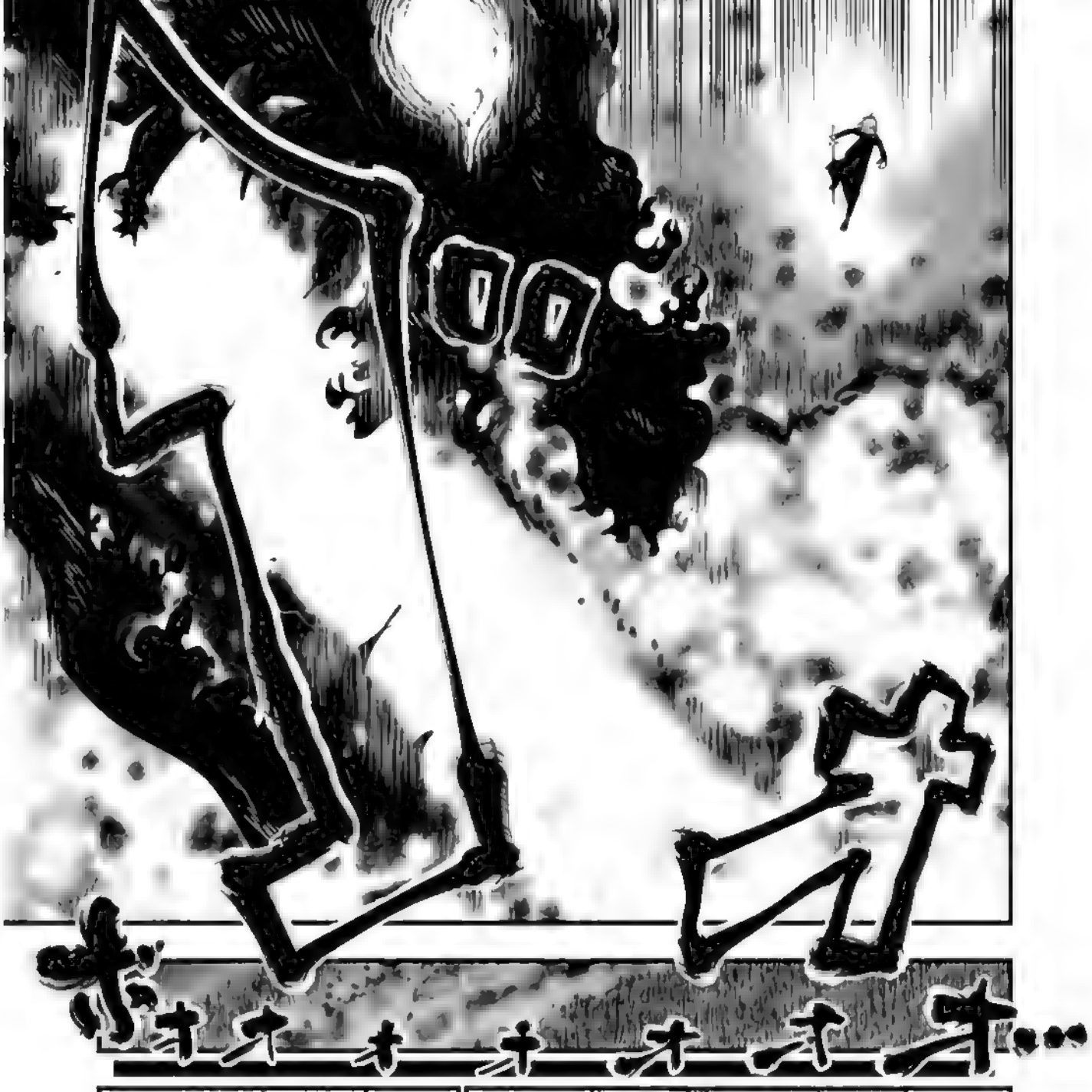

さて
1封じしようか
ボキッ
ただの魔法使いがドラゴン相手に真正面から戦うつもりなのか…？
ジャキッ


ふふ…

瞬間移動か!!
だが魔法使いの攻撃手段でこちらを傷つけるほどの火力はない!
くっ
ゴッ
!?
!?
!?
ドラゴンの悪い癖だ

自分が
そうだからって
相手も素の力だけで
挑んでくると思っている
フォォォォ
せ 聖剣!?
くっ
このっ!!
聖骸布で
作ってある
ドラゴンの
攻撃は通らない

ご覧の通りだ
俺は…
お前らを殺すことしか考えてないんだよ
畜生共
ギッ
シュッ
わっ
!?
チィ…


ボオオオオオオオ…

で命からがら逃げてきたんだ
ワーン
魔法使いに無警戒すぎましたね
無茶いうな
ブクブクブク
ドラゴンを殺す為だけに対策を練ってくる魔法使いなんて聞いたことがないぞ

しかし
どうする？
両陣営が
一触即発の
現状…
向こうの
世界の
世捨て人的な
私達が戦いに
介入して
いいのか？

どうという
ことは
ないですよ
何？

ありがたいじゃ
ないですか
倒すべき敵が
はっきり
しているなんて
第72話／おわり

夢を見た…

走ってる
お父さんの背中に
おんぶされてる
だけの夢…

私は ただ
振り落とされないように
頑張ってしがみつく

もう駄目だ
落ちるって
思ったところで
お父さんが足を
止めてちゃんと
抱えてくれる…

そんな夢…

今 話した
通りです…

このままでは
両勢力で確実に
利がない
戦いになります

パタン…

第73話 カンナと書き置き

私は
アーザードを
消して
戦いを止めます
……

生き死にの
話はともかく
戦いを
煽ってたっていう
物的証拠がないと
止められないん
じゃない？
確かに
イルルの証言
だけでは信じて
もらえないかも
しれませんね

なぁ

「このまま
何もしない」…
では駄目なのか？
え？
何を
言い出すん
ですか
あなたは…
いやな…
あっちの世界の戦い…
私達には関係ないとも
思うんだ

私はドラゴンが
戦いを求めてるから
簡単に騙されるって
言葉にむかついたが…
それは図星
だからだ

戦いたい奴が
勝手に戦って
生き死にしてる
世界に小林を
巻き込みたくはない
イルル…
両陣営の誤解が
解けたところで
元々 敵対勢力…
アーザードを
倒したところで
そのまま戦いは
起こる可能性が高い
と

でも カンナちゃんには
聞かせられない話だね
カンナをここに
追放したのは
キムンカムイだ
戦いになった
からって都合よく
戻ってこい
とも言うまい…
龍玉を渡したら
この話は終わり
ってこと？

ごめんイルル…
やっぱり
なんとか
したい…
何が
できるかは
考え中だけど…
そっか…
まぁ どっちにしろ
アーザードの奴には
仕返しするけどな！
……
む
む…
トール？
どうしたの？
あいえ
しばらく
シンキングタイム
でしょうから
私は夕飯の買い出しに
行ってまいりますね！
？
あうん
いってらっしゃい

まずいのではないか？
臓龍塚
店街

小林さんは覚悟を決めようとしている
カンナの為に…血生臭い戦いの中に飛び出す覚悟を…

小林さんが今何かしらやっているのは知っている…
明らかに身体の中に魔力を取り込み始めているからだ…

だがそれで…どうにかなるほど甘くはないだろう…
私は…

ん？

小林さんを守り切れるだろうか…？

む？
ガサッ
ガサッ
人がシリアスに悩んでいる時にお気楽ですねあなたは!!
何を言っている？俺はこれから長い闘いに入るレイドボスは死闘になるだろう
これは渋谷がへばらん為の燃料だ
どうせゲームの話でしょう!?

悩んでいる…か
ふん…昔からすぐ悩むなお前は
そういう時はだいたい運動不足だ
引きこもりのあなたには言われたくないですよ

ふむ…そうだな…互いに運動不足かもしれんな
？
たまには身体を動かすか？

なるほど
だいたいの状況はわかった
そして思うが何を悩む？
！？

縁起でもないこと言うな!!
小林は自分の意思で戦いに首を突っ込んでいる
死んだところでそれは奴が不相応な力で鉄火場に飛び込んだせいだ
まだまだだな
人間と戦えばこの程度の挑発は平気でする
嘆かわしい…
昔のお前なら悩むにしろもっとスケールの大きなことで悩んでいたぞ
どうしたら神々の軍勢を皆殺しにできるかとかな…
トール
お前は人を知りすぎて人の尺度で物事を考えているのではないか？
何？

どういう
ことですか？
キュオオ
ドン
む
お前に
できることは
なんだ？
シュウウウ…
それは
戦いだ
力を持つ
ドラゴンだから
できることがある
ケホッ
ケホッ…
どこまでも
どこまでも
強くあろうと
する力こそを
使うべきなのだ
それは
わかっています
しかし私の力で
小林さんを
守り切れな
かったらと
思うと…
ぐし
ぐし
わかっていない
俺に出会い頭で
襲い掛かってきた時…
ケツァルコアトルに
喧嘩を売った時…
そして神々の軍勢に
単身突っ込んだ時…
チッ

何故か知らんが
お前はその時より
ずっと
強くなっている
守るべき財宝を
見つけた者の
強さだ
ブシ…
ジュ
ブシッ

アーザードを
殺せ
小競り合いが
どうした？
キムンカムイも
ルミネースも殺せ
両勢力も
全てぶち殺せ

小林を守ることなど
そのついでにすぎん
悩む暇があるなら
力を磨き続けるのが
お前のやることだ
人間と共に生きる時を
後悔にしないのだろう？
ファフニールさん…

その通りですね…
だからまずは…
あなたをぶっ殺す!!
やってみろ!!
ドン
ドン
ドン
ドン
いてて…
初めてファフニールさんに土をつけた気がする
ふんす-
ま 私のやることなんて端から決まってますか
出たとこ勝負でなんとかしてみせるぞ!
早速小林さんと作戦会議だ!
ただいま帰りましたー
いやーすいません ちょっとファフニールさんと話し込んじゃって…
ばた
ばた

……
どうしたんですか？

カンナちゃんが
いなくなった
!?
手紙が
置いてあった
おそらく
ここに直接
次元ゲートが
開いて
飛んできたんだ
カンナは
これを読んで…
スッ
カンナ…
お前…
戻ってこないか？

俺がお前に必要としていることは今も昔も共に仲間として戦うことだ

そして龍玉もまた近々起こる闘いに必要となってきた

最早お前がそちらで力を抽出しているのを待ってはいられない

こちらに来てやってもらいたい

龍玉はなくても戦ってやるつもりではあるんだがそうなれば仲間が結構死ぬ(まじ)それを避けてえんだ

俺は嘘がつけない…正直に言うがお前が俺に抱いているものは未だによくはわからない

だが一方的に追放して不義理を働くような物言いでもお前がこっちに戻ってくるなら…

親子の情とやらの重要性も考えなきゃならねぇなと思う

次元ゲートを作っておく

魔力の痕跡を辿(たど)っていけばわかるはずだ

了承したならそこから入ってきてくれ

※小林さんというわけだ

すまねえな

卑怯な言い方しやがって!

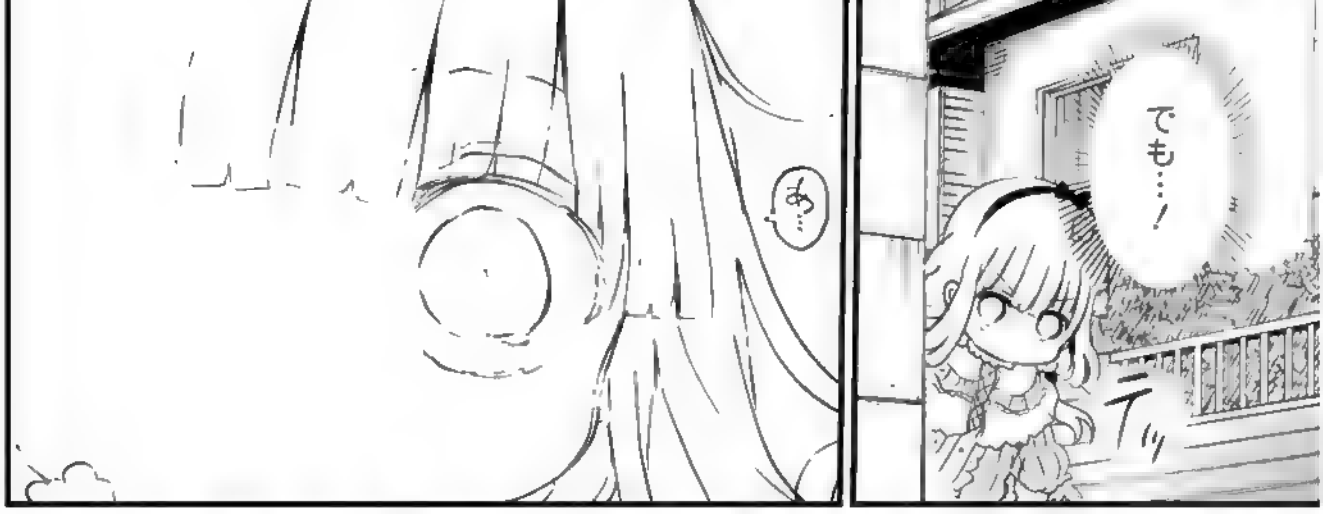
カンナの書き置きもあった

行く
龍玉があれば
お父さんたちが勝つ
私も手伝う…
そしたら…

そしたら…
きっと…！

……
駄目ですね
カンナは
魔力の気配を
隠しています…
次元ゲートの
魔力の痕跡も
希薄すぎて
感知力が高い
カンナでないと
追えないでしょう

カンナちゃん…
ガタッ
もう…
!?
…もう
会えなく
なっちゃう
かもしれない
!?



第73話　おわり

カンナさん…
どうしたの？
黙っちゃって…
才川（さいかわ）
ゴメン
え
私…ここから
いなくなる
ごめん…
一緒に
いたかった

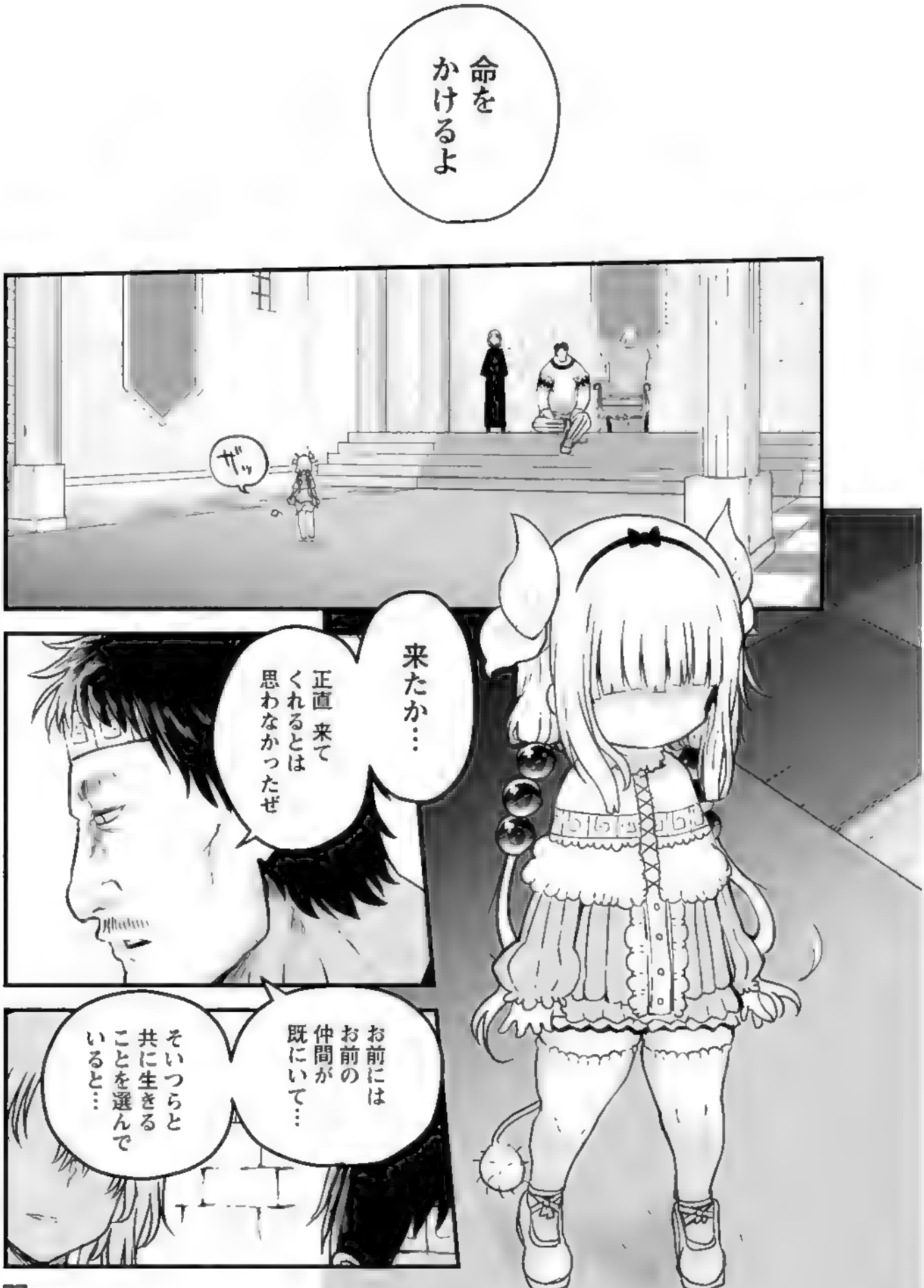
第74話 カンナと才川
カンナちゃんを追うよ!!
それは…
我々の世界に…
行くということですか？

危険すぎるぞ
命の保証もできない
No

私達だけで行く！
あなたキズが治ってないでしょう
留守番して下さい
ええ？
二人守る余裕はないんですよ
ぬぅ…

お願い
ポンッ
この家…守って
いいんですね

私はあのオヤジにもう一度会って話さなくちゃいけないと思う
でも…
ひたすらトールの負担になるのはわかってる
駄目ならハッキリ言って…
イルルと留守番する
私を信じてくれますか？
そんな今さら…
……


命を
かけるよ
ザッ
来たか…
正直 来て
くれるとは
思わなかったぜ
お前には
お前の
仲間が
既にいて…
そいつらと
共に生きる
ことを選んで
いると…

お父さん…
あの手紙のこと…
手紙…？
……
ああ…
偽りはねえ
ピッ
！
龍玉か…
あと数時間で完成する
オオオオオオ

問もなく
戦いが
始まる…
完成を
急げ
では
集中できる
部屋を用意…
お父さん
私が帰ってきて
……
嬉しい？
！
ああ
嬉しいぜ
お前は
戦力になる
一緒に
戦おうぜ!!
ニ
コッ

そっちは
ただの玉…
バランス
悪いから
持ってて
ピッ
?
パ
ではカンナ様…
こちらへ
ん
ボリッ…
ばか

結局ドラゴンってことか…
？

イルルから聞いているんだろう？
俺のことを親父にチクればよかったのにお優しいことだな

お父さんはお前を信頼してる…
きっと信じない…

龍玉が勝手に壊れたのを信じてもらえなかったように？
…！

龍玉があるとルミネースがおいそれと手を出してくれないからね…いったん君にお預けしたってことだ
…今さらどうでもいい

親に必要とされ共に戦えることが嬉しいんだろう？
だからあの人間よりもキムンカムイを選んだ
人間ごっこをやめ…友達も全て捨ててきた…だろ？

カンナさん
そんな…
突然すぎる!!
私まだまだ
カンナさんと
一緒にいたい!
友達だよ?
親友だよ!?
無二の! 永久の!
待って…
カンナさん!!
いかないでー!!
しかし父親と共に
戦えるとなれば
あっさりと
ここまで協力的に
なったわけだ
あの手紙に
キムンカムイが
親子の情を持って
くれるかもしれないと
希望を持ったのかな?
俺は戦いが
起こった時
この地を離れる…
後は好きに
するがいいさ
それで…
また同じことを
繰り返すの?
どうして…

……
ピタッ

俺は
ドラゴンが
嫌いだ
強大な力を
持ちながら
己を律せず
好き勝手暴れる
混沌勢…
起こされた
混沌に対して
秩序と引き換えに
対価を要求する
調和勢…

人間にとって
一番いいのは
ドラゴン自体が
いなくなることだ
だからいくらでも
争えばいい…
消えてなくなるまで

そんなドラゴン
ばかりじゃない…
私の周りには…
それが一番
気に入らねぇってんだよ
人の感情を
理解し互いを
尊重し寄り添えると
でも言うつもりか？
面白がって
人間のふりをして
いるだけの癖によ

だから
あの手紙も
書き換えたの？
!?
さっき話しても
わかる…
お父さんにああいう
書き方はできない
気付いていた
なら何故…

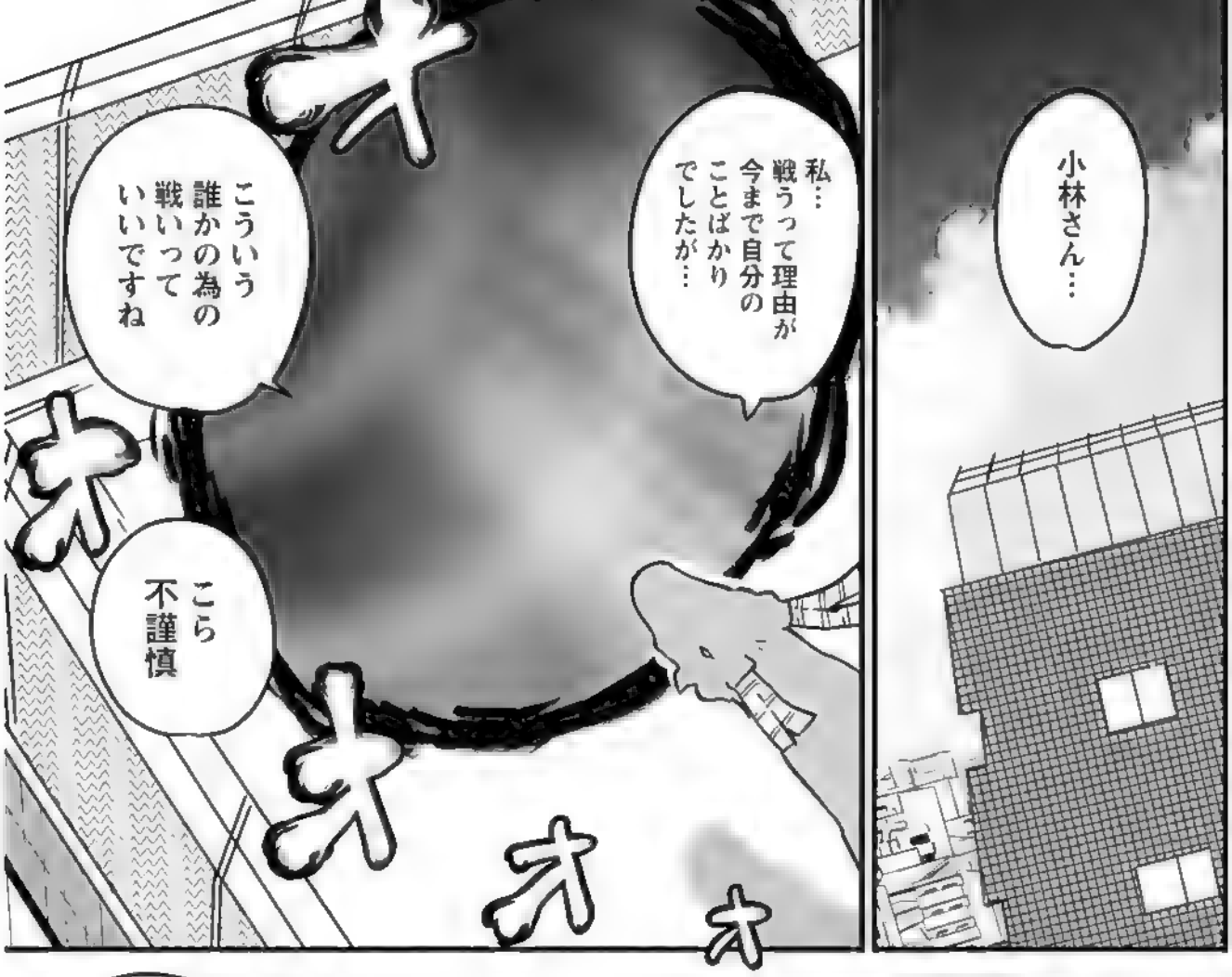
向こうで
得たものを
全て捨ててきて
ここに来たん
だろう!?
軽かったって
ことだ！
違う…

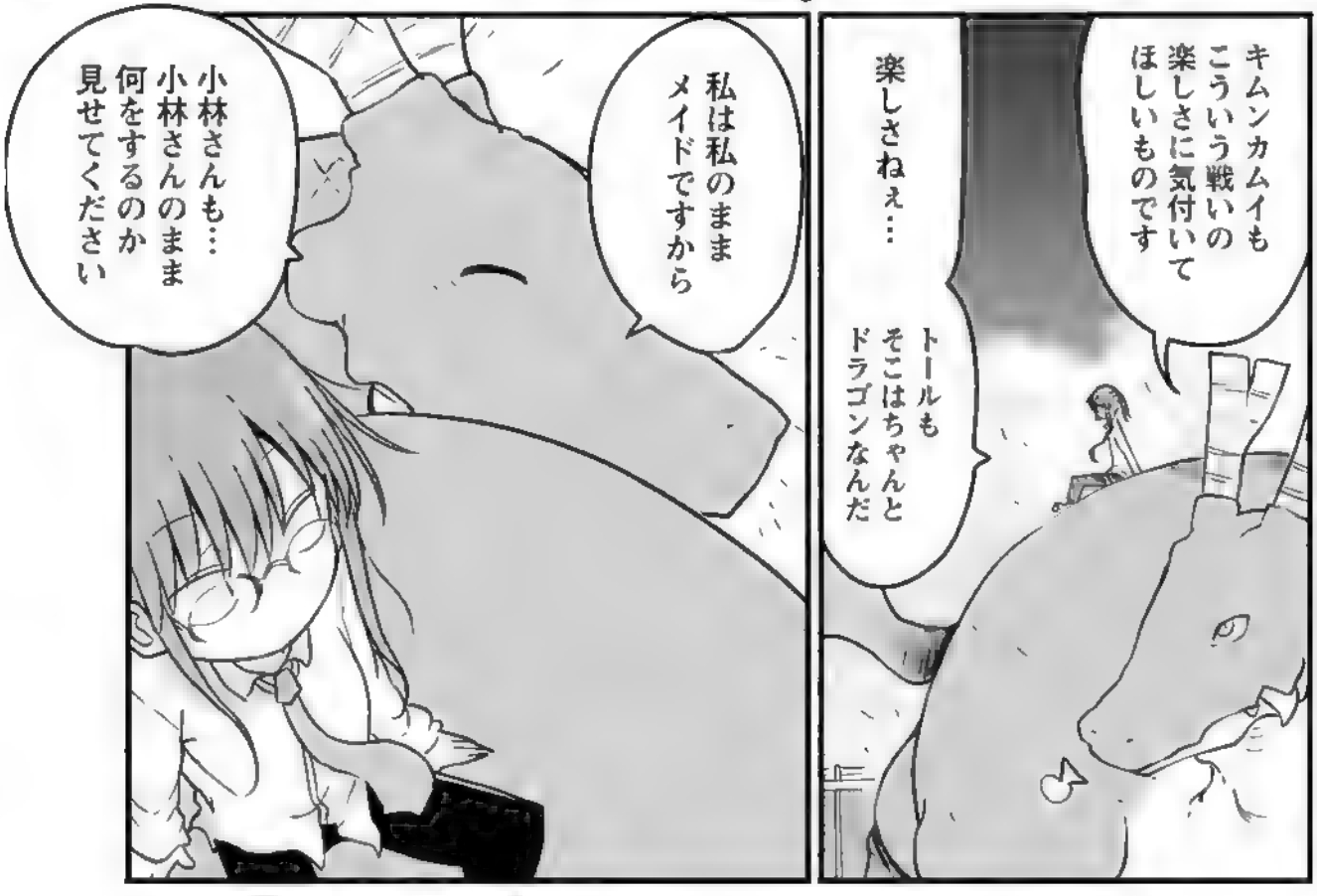
才川…
うう…
トテ
トテ
ドドドドド
待てええええええ!!
!!!?

やだやだ
絶対
お別れしない!!
どこに引っ越しても
私はあなたを
追い続けるもん
逃げても無駄!!
居なくなったら
舌を噛んで
死んでやる!!
お別れとか
さよならとか
今言ったことを
全部取り消して
私に謝罪して
抱きしめさせろぉ!!
ワオオオ
わあああああ!?
わかった!
わかった
才川ー!!
うぉー
クス…
挑発か!?
人間の感情は
温かかったり
優しいだけじゃない…
途方もなく
欲望深い心…
私もそれに倣う

争いは止める
お父さんにはもっとお父さんしてもらう
アーザード…お前は倒す

私は…全て貰って才川と小林の元へ帰る！
小娘が…
とことん俺をイラつかせたいらしいな…
お前にできることなど何もない…


小林さん…
私…
戦うって理由が
今まで自分の
ことばかり
でしたが…
こういう
誰かの為の
戦いって
いいですね
こら
不謹慎


キムンカムイも
こういう戦いの
楽しさに気付いて
ほしいものです
楽しさねぇ…
トールも
そこはちゃんと
ドラゴンなんだ
私は私のまま
メイドですから
小林さんも…
小林さんのまま
何をするのか
見せてください

小林さんは
何かすごい
秘密兵器があって
キムンカムイを
ワンパンで倒すん
ですよね!?
そんなわけ
ないじゃん…
えー

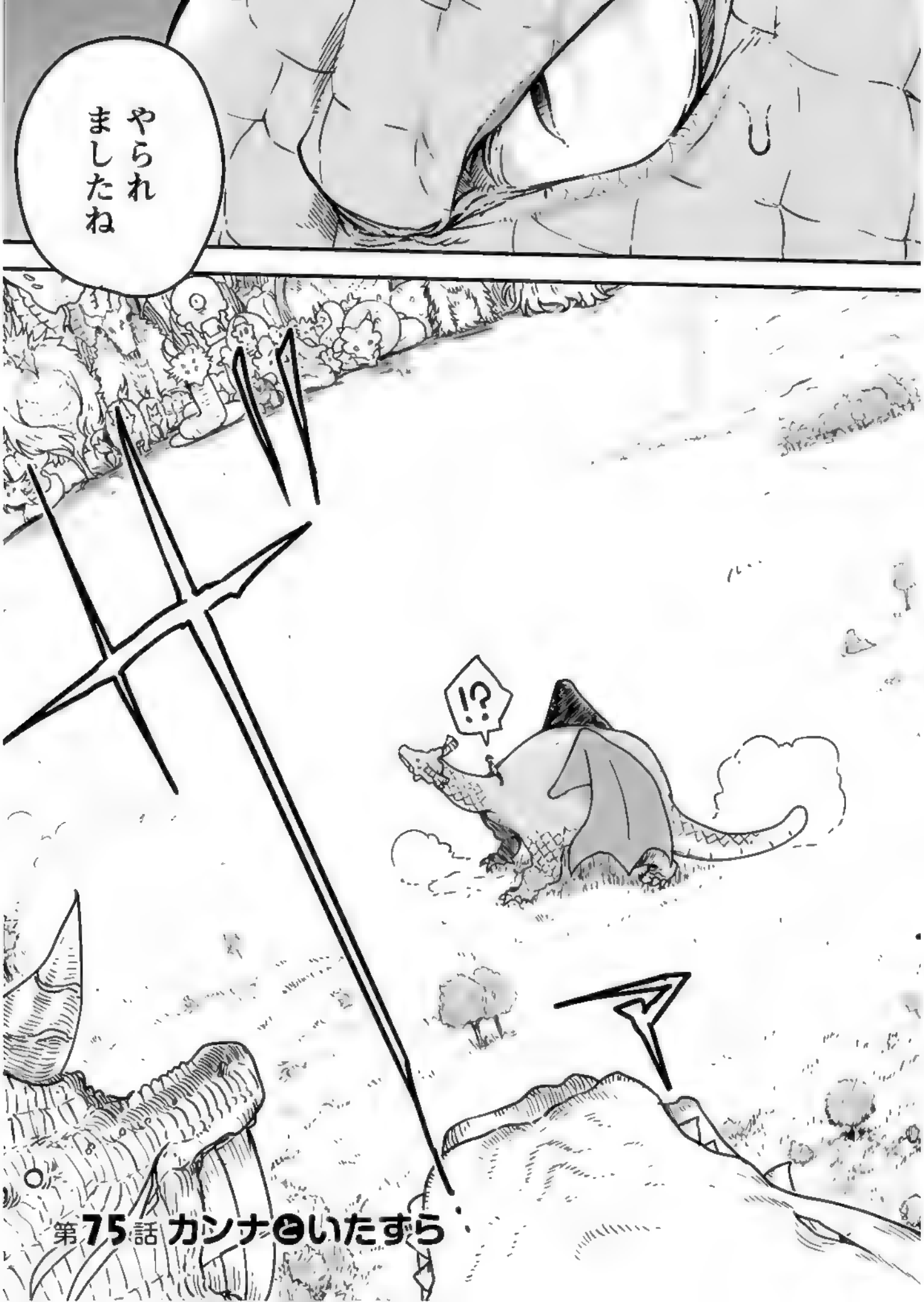
そうだ…
初めて行く…
トールの世界…
日本の常識も
法律も一切
私を守らない…
か弱い
女の私には
怖すぎるけど…

私を守ってくれるのが
トールだっていうなら…
さぁ行こう
第74話／おわり

所詮は
その程度だ…
力は
及ばず
龍玉は
奪われ…
今 何が
来たところで
俺は余裕で
逃げ出せる
ギロ

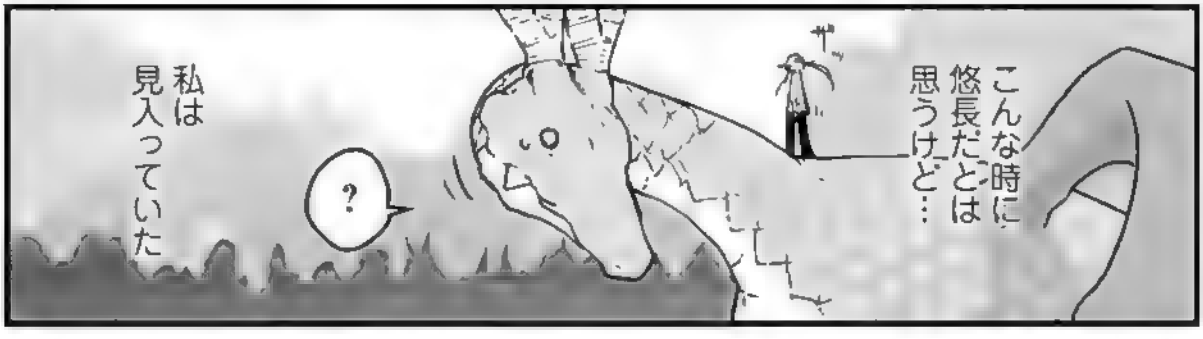
ん？
ゲートの
反応…
どうやら君の
お仲間が
追いかけてきた
ようだね
おやおや
小林という
人間も一緒だ
！
ふふ…何を
期待してる

彼等が
降りたつ場所は…
ここあたりの
魔力の流れは
把握している…
少し細工すれば
出口をいじれるんだ
ぐにゃ
!
何を…!?
ぐにゃ
あっ
着いた!!
ここが…
トールの…
呪み合う
両陣営の
ど真ん中だ

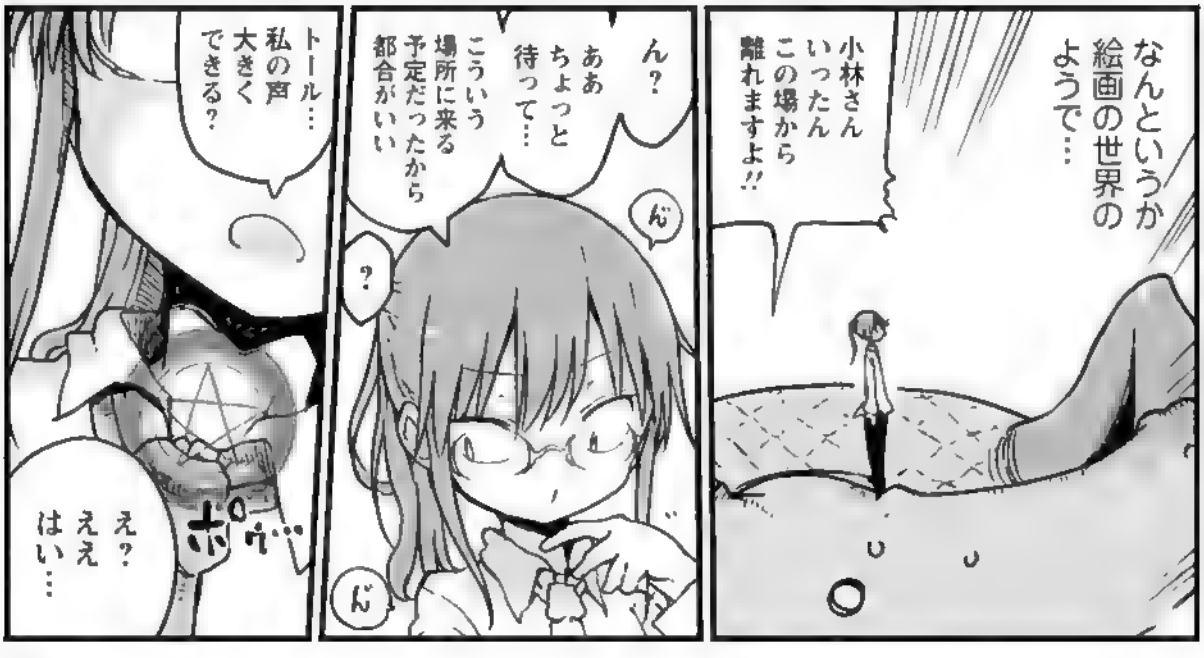


第75話 カンナといたずら

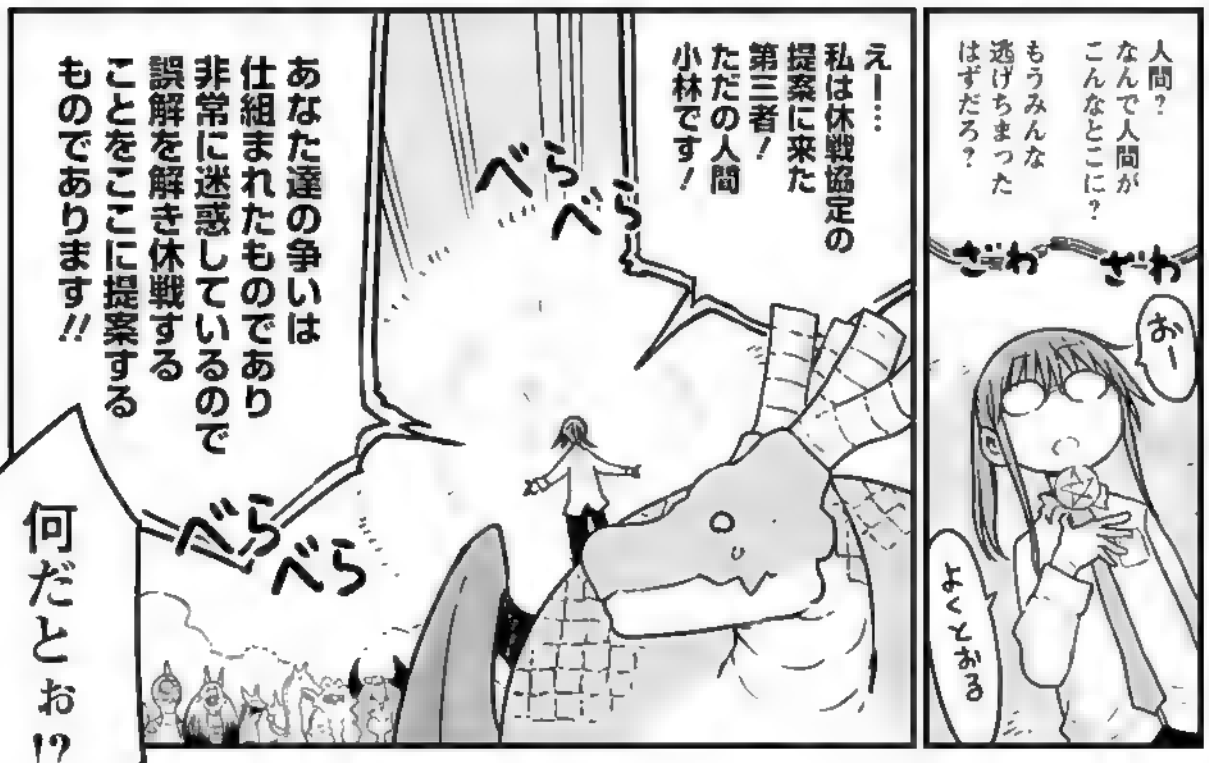
なんだ…
急に現れたぞ…
ザワ
あれは
終焉帝(しゅうえんてい)の娘
トールじゃ
ないか？
何故ここに…
生きていたのか
混沌勢の
増援…か
我等と
戦う為に
戦力を
揃えたか…
ゴ
ゴゴ
ゴ…
奴は離反した
逃亡者と
聞くぞ！
オ
オ
オ
丁度いい！
調和勢と一緒に
叩き潰して
くれるわ!!
まずいな…
一触即発だ…
むぅぅ
戦うにしても
ここじゃあ
挟み撃ちか…
優先すべきは…
小林さん!!


こんな時に
悠長だとは
思うけど…
私は
見入っていた
?

感じたことが
ないほど
ここは生々しく
自然な空気で…
そこに
並んでいる
ドラゴン達…
恐怖とか
それ以前に…


なんというか
絵画の世界の
ようで…
小林さん
いったん
この場から
離れますよ!!
ん?
ああ
ちょっと
待って…
こういう
場所に来る
予定だったから
都合がいい
?
トール…
私の声
大きく
できる?
え?
ええ
はい…
ポヮ…

もう我慢できねぇ！
一番槍行っていいだろ!?
いやキムンカムイ様の号令がまだ…
静まれえええええええい
ビクッ


人間？なんで人間がこんなとこに？
もうみんな逃げちまったはずだろ？
ざわ ざわ
おー
よくとおる
えー…私は休戦協定の提案に来た第三者！ただの人間小林です！
べらべら
べらべら
あなた達の争いは仕組まれたものであり非常に迷惑しているので誤解を解き休戦することをここに提案するものであります!!
何だとぉ!?

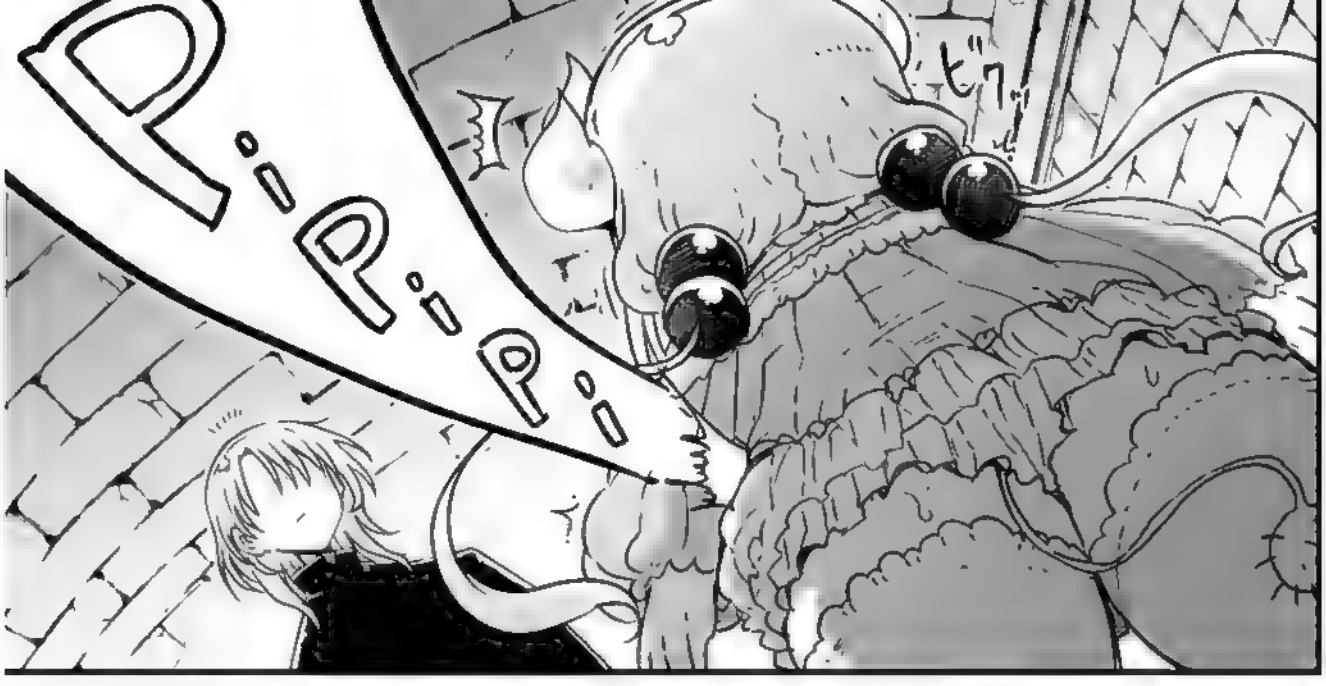
いきなり何を言い出す!!
そいつらが
何もしてない俺達に
いきなり戦いを仕掛けて
きたんだろう!?
あー
うんうん
はいはい
何もしてない
だと!!
嘘をつくな!!
ここにいる
信仰心ある
人間達を虐げて
いると聞いたぞ!!

混沌勢は人同士が
戦い合って
滅んだ土地を
使っているだけだと
聞いている!!
そして
調和勢は
嘘の情報を
聞いてここに
やってきている!!
え?
そうなの?
アーザードが…?

待て待て
急に出てきた
人間だぞ?
どうして
信用できる?
嘘だ!
しかし本当なら
戦う理由もないのに
戦うことになる
大戦争の前に
無駄な消耗は嫌だ
一度 確認
してもいいんじゃ
ないのか?
呑気なことを
言っていたら
奴等を取り逃がすぞ
関係ねぇ
俺は戦いてぇ
そうか
小林さん…
こうやって
混乱させて
いるうちに
この場を…?

取り乱すなぁ!!

オッ
びくっ
ルミネース様!
アーザードは我等に長年仕えた密偵!
嘘をついているなどと侮辱でしかないわ!
確かにそうだ!
騙されるところだった!!
なんだ嘘なのか!?
謀りおって!許さんぞ人間!!
あれ?でもアーザードは裏切ってたのかショックだ!!
ねぇドラゴンチョロいの多すぎない?
そんなこと言ってる場合じゃないですよ!!
あわてないあわてない
え?ここ電波ないですよ?
大丈夫大丈夫!最近覚えたんだ
こうか?
スッ
探知と電波飛ばし
Pi-Pi-


ビクッ!
P-P-P-

あ…
何だ それは？
PI
PI
PI

電話…
こ…小林から…
いいよ 出て みれば？
ああ 通信する 道具か…

互いに遺言を 言い合えばいい
ギチ…

言い終えた瞬間 殺してやる
小林… 私… ゴメ…
PI

そういうのは 全部あと
駄目じゃない 家のもの 勝手に 持っていっちゃ
!

ごめん…
でもちゃんと
「使えた」
そっか…
本当「いたずら」
好きだねぇ
あ
小林がどこに
いるかは
知ってる…
目の前の
男が教えて
くれた…
ねぇ…
また「いたずら」
してもいい？
？
……
そこでして
大丈夫？

大丈夫！
信じて！
…わかった
すぐ行く

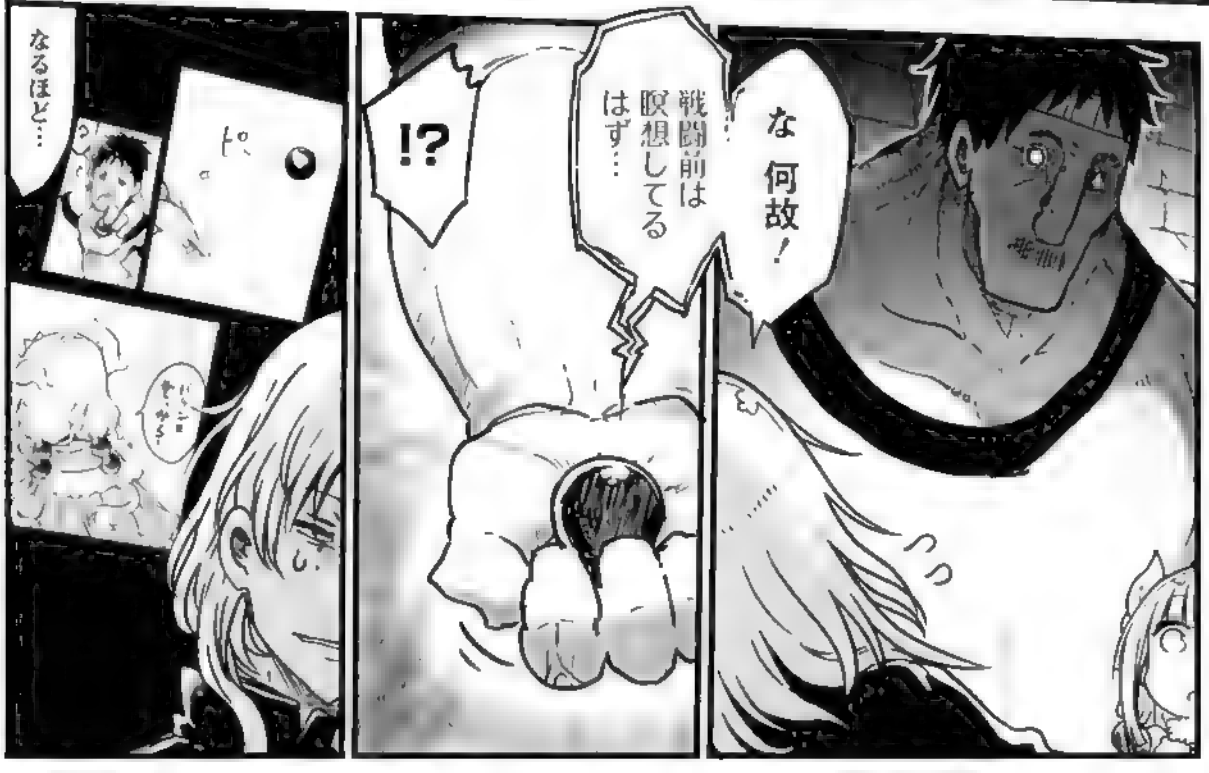
聞きたい会話が
ないようだが？
もういい…
殺すか…
えー 皆さん
ご静粛に…！
私からの反論は…
パキッ
なんだ!?
武器!?
ドラゴンが…!?
しかし何が
来たところで
防御は万全…！

人間にとって一番いいのは
ドラゴン自体が
いなくなることだ
だから
いくらでも
争えばいい
消えて
なくなる
まで…！

いや…ドラゴンがそんな小細工をするなんて…
なんだ？俺の声…そんな道具が…
パチ
パチ
ドキッ!!
俺はドラゴンが嫌いだ
龍玉が勝手に壊れたのを信じてもらえなかったように？
龍玉があるとルミネースがおいそれと手を出してくれないからね…
ぬぅぅ…
ショック…
マジー
アーザード…裏切っておったか…
決定的だ…
魔法で声を作った反応も感知できん
え…
は？

悲しい目…
侮ったのは
認める…！
次は
気をつけるよ
怒り…
いや…

ポタ
ポタ…


な 何故！
戦闘前は瞑想してるはず…
!?
なるほど…
ハッ
すやすや

せっかくの眠いにケチがついちまった…
正面からくりゃよかったのによ
そういうのはあいにく苦手でね
俺はシャイなんだ

殺すぜアーザード…
お前の死を悼む仲間はいないと思え
はっ
見せてやる…
龍玉の力…!!
!!

第75話／おわり

第76話
龍玉の力は単純にドラゴンの能力を向上させるものじゃない…
魔法使いでもドラゴン並みの力を使う為に作られたものだ
そして それは思わぬ副産物を作り出した…
魔力の形質をいくらでも変化させドラゴンの中へするりと入り込み…
その身体と精神を冒し…
操る!!
うおぁあ!!?

第76話 小林と裏技
!!?
ううっ…同胞を殴ってしまった…
龍玉の力を使ったか
事態が急変しているようだな
ズガガガーン

行け
ここは任せろ

あなた達…
どうしてここへ…
おいそれと
肩入れできる
立場でもないでしょうに
エルマ
今日の
仕事は？
ファフニールさんは
周回イベント中だって
滝谷君から
聞いてたのに…
僕が二倍働くから
行っておいでよ
周回は僕が
代わりに
やっとくから
向こう手伝って
あげなよ
滝谷君…
というわけだ

アーザードが
動いたということは
カンナが危険です！
ここは二人に
お任せして
行きましょう！
うん…

ありがとう
二人とも！
駅前の
クレープ
おごり
だぞー！
俺は新作の
グラボを
よこせ
お
お
お

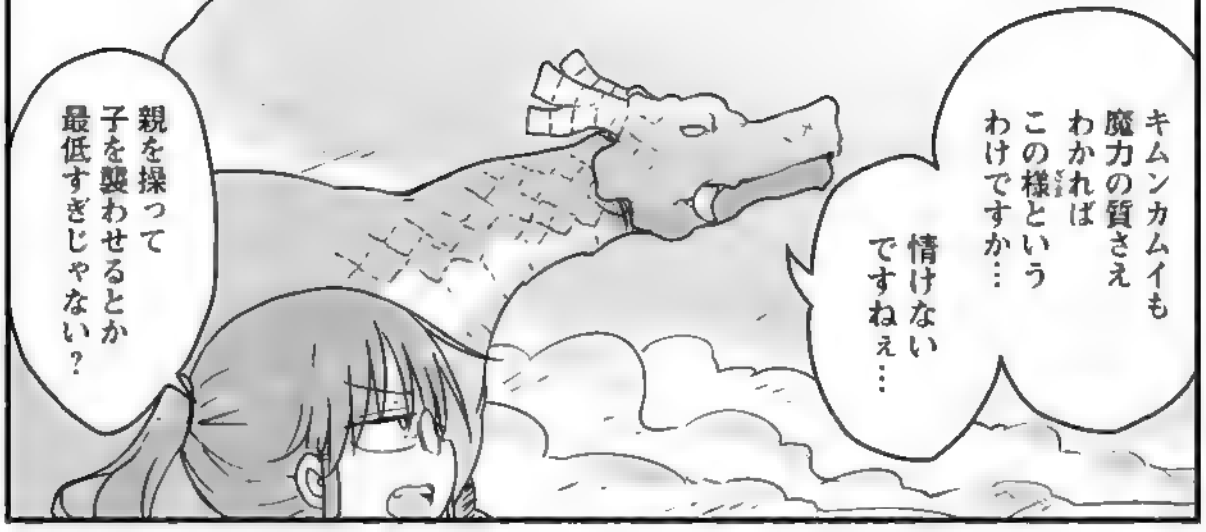
さて…
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

私は混沌勢の
軍勢を
相手にしよう
俺は
闇組勢を
皆殺しにする
おい
ヤメテ
ちっ
…半殺した

てんおおおおおおお
しかし 妨害さえ されなければ 戦いは収まり そうでしたね！
さすがは 小林さんです！
違うよ…
ドラゴン達が 騙されやすい ってだけ
簡単に 騙されるから 簡単に 目が覚めた
純粋 なんだろうね
触れてきたもので いくらでも心が 変わっていく…
……
あの山を 越えた先です！
な!?

見れば
わかる…
あれは
キムンカムイだ…
カンナ
ちゃんは…!?
あ!!

カンナちゃん
無事!?
ムリシヌ…
よくも
ただの人間が
ここまで
来たものだ
!
ドラゴンの庇護(ひご)が
あれば ここまで
調子に乗れる
ものなんだな
スー…
アーザード!
人のこと
言える!?
龍玉とか
いうので
ドラゴンを
操れるとか
でしょ!!
さすがに
人間は
鋭いなぁ
ドラゴンを全て
操れるわけ
じゃないな…
魔力の質まで
理解してる…
長く関わってきた
この一帯の
ドラゴンまでか!
なんだ こいつ…
本当に鋭い…!?
小手先の魔法を
使っていたが
素養が少しある
程度ではないのか!?
ちっ

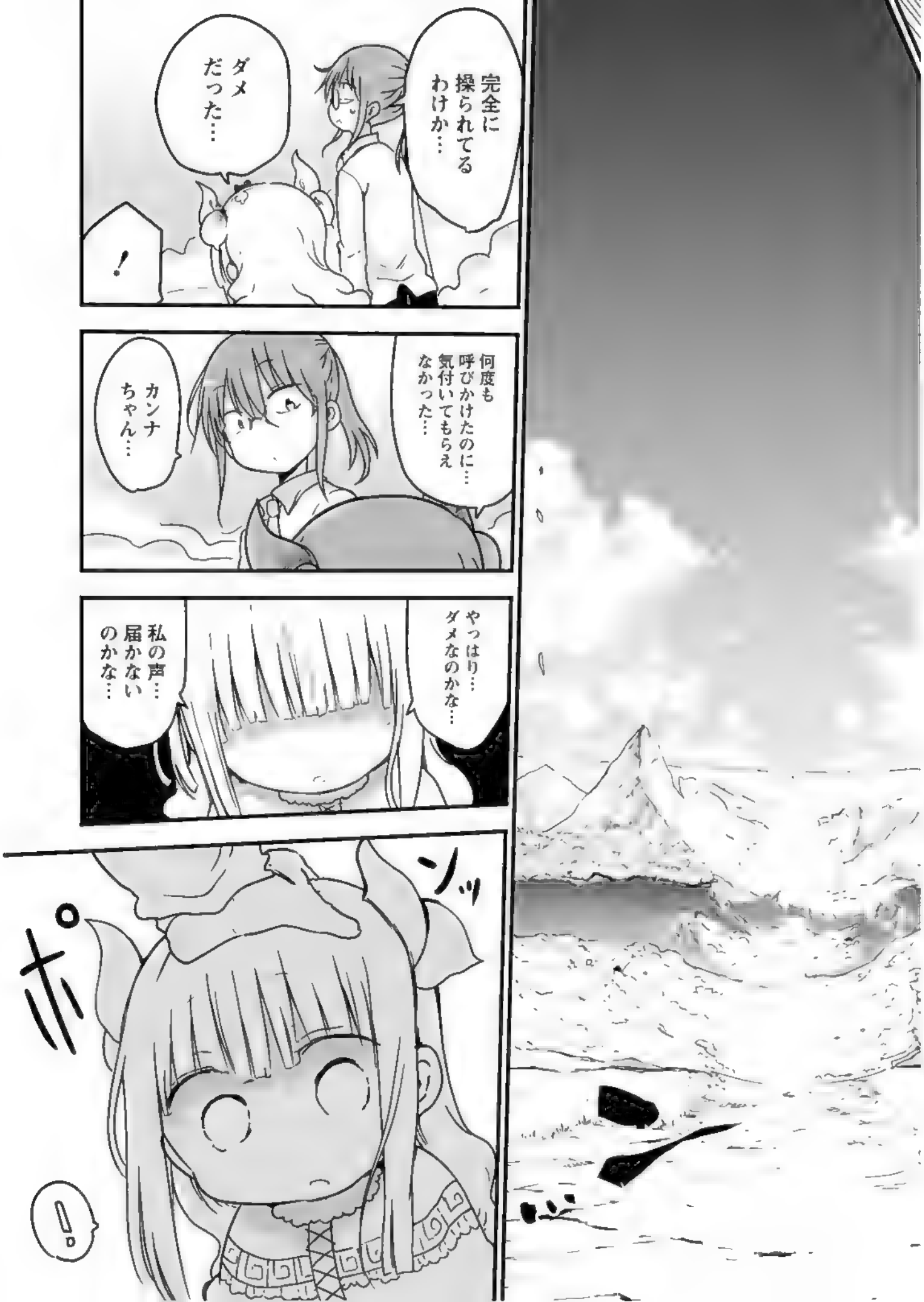

キムンカムイも
魔力の質さえ
わかれば
この様という
わけですか…
情けない
ですねぇ…
親を操って
子を襲わせるとか
最低すぎじゃない？

所詮は
ドラゴンだ
本当に人間の
情愛を理解
することは
なんてない

嘘だね
あなたは
親子愛を利用して
カンナちゃんを
ここに呼んだ
それって より強く
否定したいから
弄んでみせた
ってことでしょ
!?

おしゃべりは
ここまでだ！
行け!!

ドドド

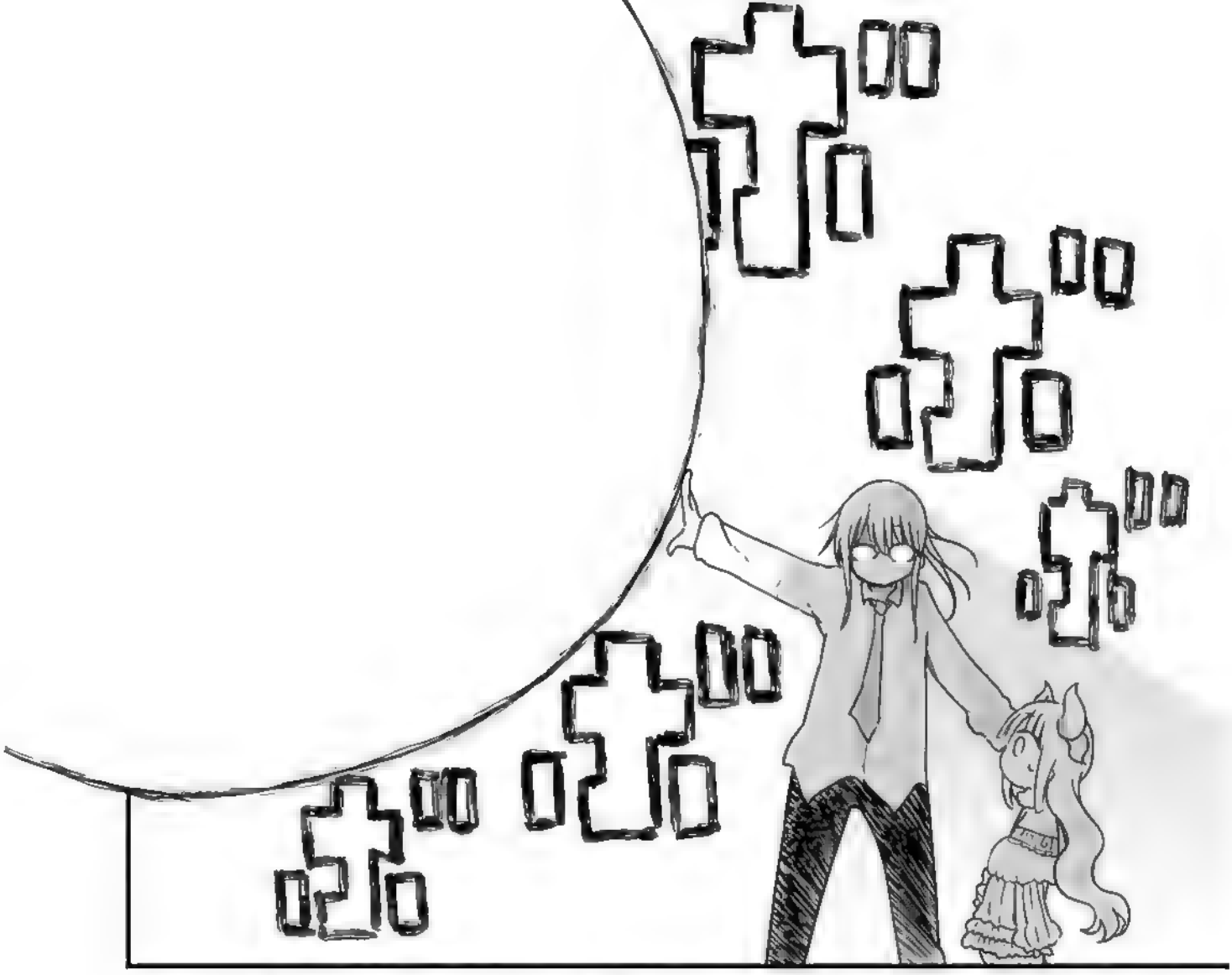

完全に操られてるわけか…
ダメだった…
！
何度も呼びかけたのに…気付いてもらえなかった…
カンナちゃん…
やっぱり…ダメなのかな…
私の声…届かないのかな…
ポ
ソッ
？

届かせるよ
コバヤシ？

コバヤシ
魔法は
習いたて…
そんな
すごいの
使えない…

裏技
ポ
ゥ…

まずいな…
キムンカムイ…
互角くらいだったか…
まずいな…
まさかキムンカムイと
互角ほどの強さが
あるとは…！
ならば
小林とカンナを
人質にでも
するかぁ!!
!?
ニィ…



りゅ…龍玉!?
龍玉なのか!?
しかし あの
器の大きさと
膜の太さは
なんだ!?

龍玉は
魔法使いの
才能を削って
器を作る…
何人もの
魔法使いが
枯れるほどの
力を使って
ようやくこの
大きさだと
いうのに…

え…
なっ…
は?
はぁあ

いや…
待て…！
待てよ
お前!!
枯渇
するだろ
それ!!
それほどの才能を
ただ この一時(いっとき)の
為に犠牲に…
捨てるつもり
なのか…!?

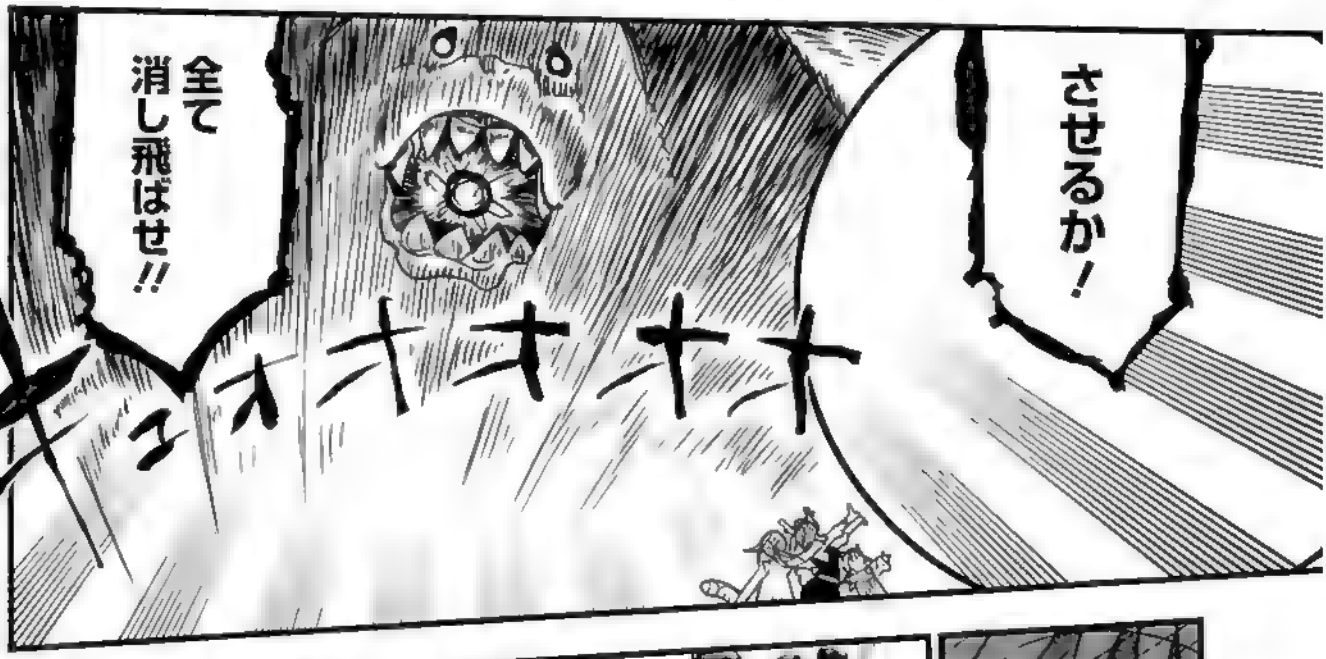
そりゃ 現実で
使わないもの…
ちょっと
もったいない
気もするけどさ…

なるほど
そういう
ことですか！
ブオッ

充分でしょ？
子を泣かせる
親をぶっとばすのにはさ

ズサッ

ありったけ
籠めます!!
ボボボ
私も!!
ボボボ


させるか!
全て
消し飛ばせ!!

なんだ!?
誰だ!
どこから…
ぐうっ

なら 俺が!!
無効
テレポート できない!?
戦闘中 自分の魔力を ばらまき まくりましたからね…
今 この場で 好き勝手に魔法の コントロールは できませんよ
トール! 溜まった みたい!!
じゃあ トールが これを あいつに…!
はい! 小林さん いきますよ!!
ポウ
しまえ!?
テレポートは 奴の専売特許じゃ ありませんよ!
ブウン
と
ちょ
小林…
私…

あ
あ
あ
あ
あ
あ
ア
あ
あ
小林と…
トール様と…
才川にイルル…
みんな…
いるから…
大丈夫…
平気…
あんな
お父さん
知らない…

おっとっと…

ドサッ
シィイ…ン…
キムンカムイを…
一撃ですか…
いや 小林さんならいけるかなって…
いけるかバカー!!
……
さすが小林さ…
いきなりあんな高いとことばすヤツがあるかぁ!!
え?

ざまぁみろ
戦うことしか
キョーミなくて…
簡単にだまされて
利用されて…
第77話 カンナとキムンカムイ
ざまぁみろ!!

ああ…
本当にな…
ズズ…
！
意識が
戻り
ましたか
ああ
途中から…
おぼろげに
記憶はある
んだが…
まさか 俺に
お前が勝つ
とはなぁ…
意外と平気
そうじゃん
私の才能全部
でこれかぁ…
いや…
立てねぇよ…
一発で
のされたの
なんて
初めてだぜ
たいした
もんだ
私がやったこと
少ないけどね
勝ちだというなら
飲み会で自慢するわ

……
とりあえず
話しにくいから
人型になってよ
首痛い
ワッ
わから
ねぇ…
何で お前は
ここまで
やれたんだ…
……
仲間のカンナの
為だってのか？
同族でも
ねぇのに…
カンナは
お前の
何だ？
私は…
ト…
友達だね

あっさり答えるじゃねぇか
いろいろ考えたけどね
親でもいいかなとも思った

でも私はやっぱり親代わりになれる友達止まりだよ
それで命をかけたのか？

お酒がうまくなるからね
それなら…
わかるぜ
なら…
もっとおいしくしてもらおうか

カンナ…
ア ア ア ア ア ア
ギャー

なぜだ…
どうして…
俺は…
俺はやり返したかっただけだ!!
ドラゴン共に…
!

君は間違ってないよ

ただ 何を選んでも正解だった

だから この結末も正解と受け入れるべきだ

俺の時は…あんな…

あんな奴いなかったじゃないか!!

救ってくれる奴なんて…

ドラゴンから俺を…妹を守ってくれる奴なんて…

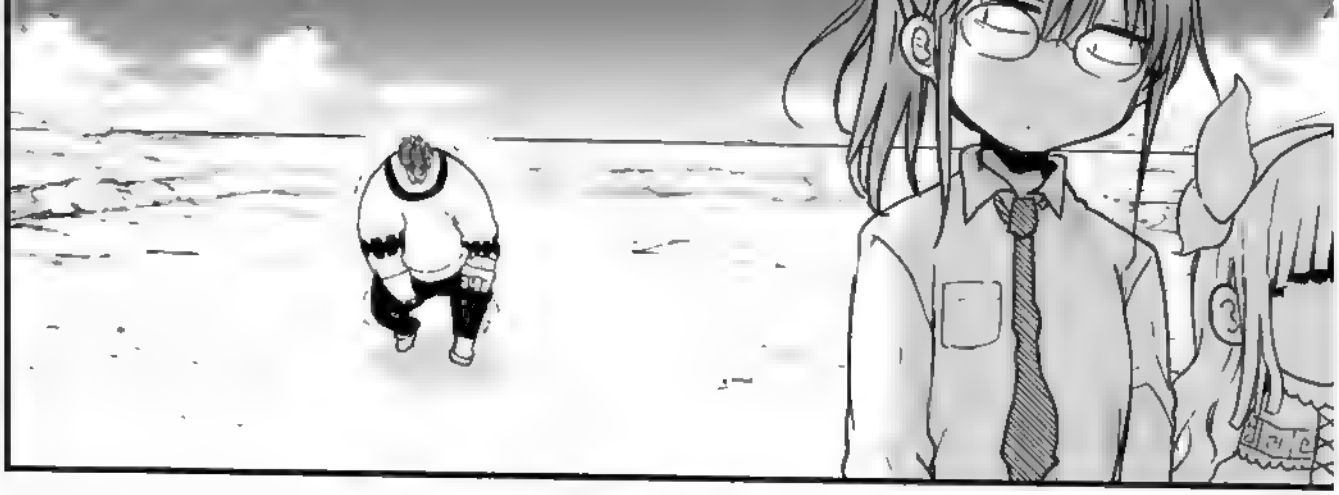
そうだよ…
守るべき
者がいない
君がドラゴンを
今更やっつけた
ところで…
救い主には
なれやしない
そして…
君の救い主が
やってきた

終わりだ
まだだ
俺は…
戦う…
戦うんだ!!

お前は…
小林の下で
暮らすべき
なのだろう…

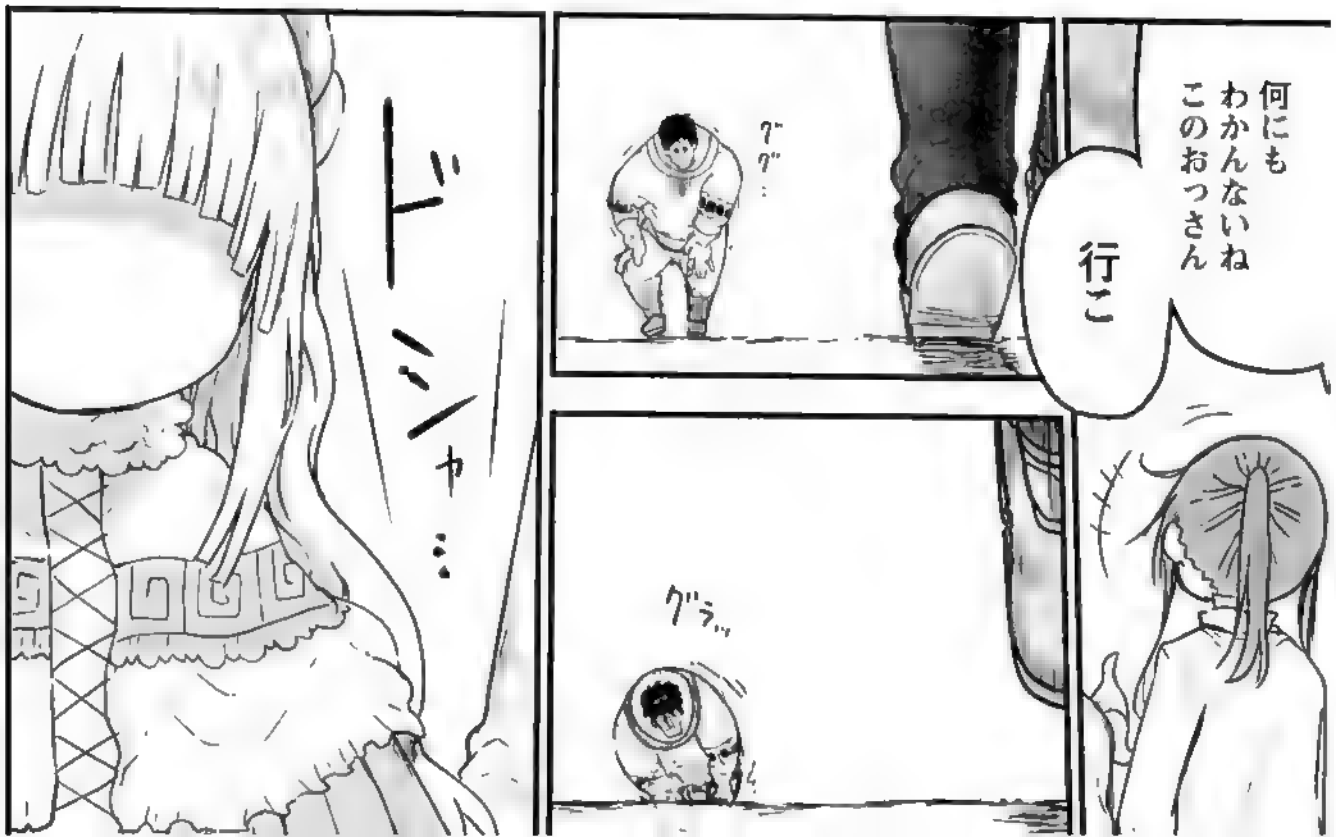
考え方も
生き方も
もう違う…
どうあっても
俺はお前の
望むようなの
にはなれん
それはハデス
より弱いね!!
ナヌ

そう？
もういいよ
小林…
帰ろう
トールも
そろそろ
戻るかな
ガタッ



なんで
立ち
あがった
の？

……
わからねぇ


何にも
わかんないね
このおっさん
行こ
ｸﾞｸﾞ…
ｸﾞﾗｯ
ドシャ…

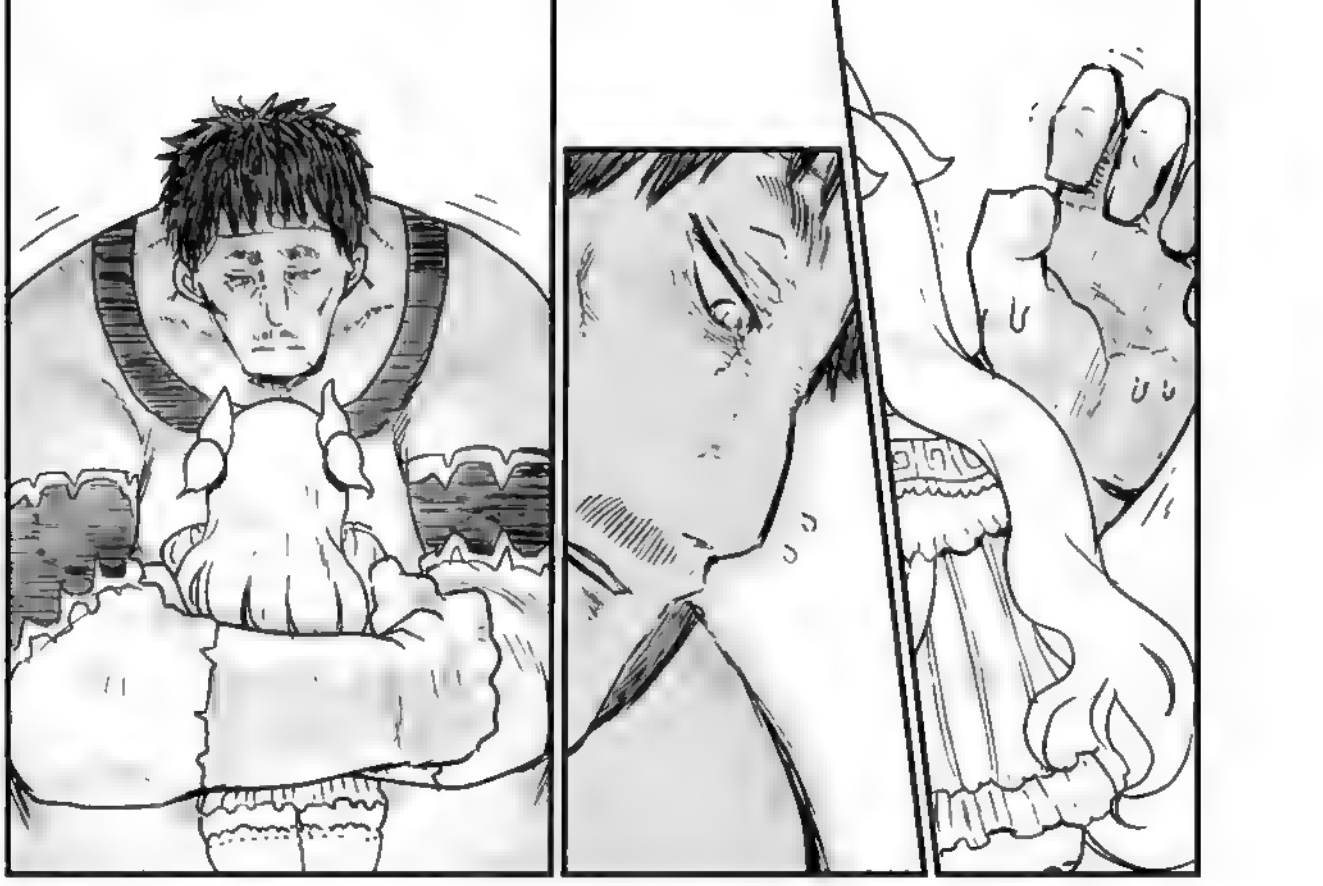
その気持ち…
私も
ずっと
持ってた
たぶん…
同じ…
なんだ
ろうな
……
私……
私も…
……ってた…
ま…ってた

ずっ…
ずっとずっ…
ドクン…
すごいカラダ

さびしかった
さびしかった
さびしかった!!

さびし…
かったぁ

さびしかった
よぉ…!!



第77話／おわり

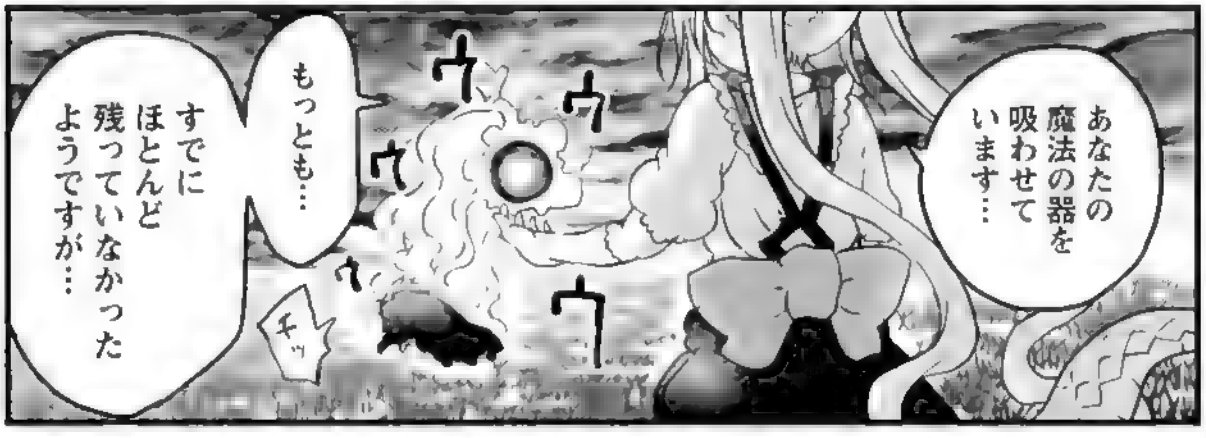
第78話 カンナの父とキムンカムイの娘

ゴ
ギン
ドシャア

スッ
ピッ
これで…
この騒動も
終わりですね

あれ？
俺達は
何を…？

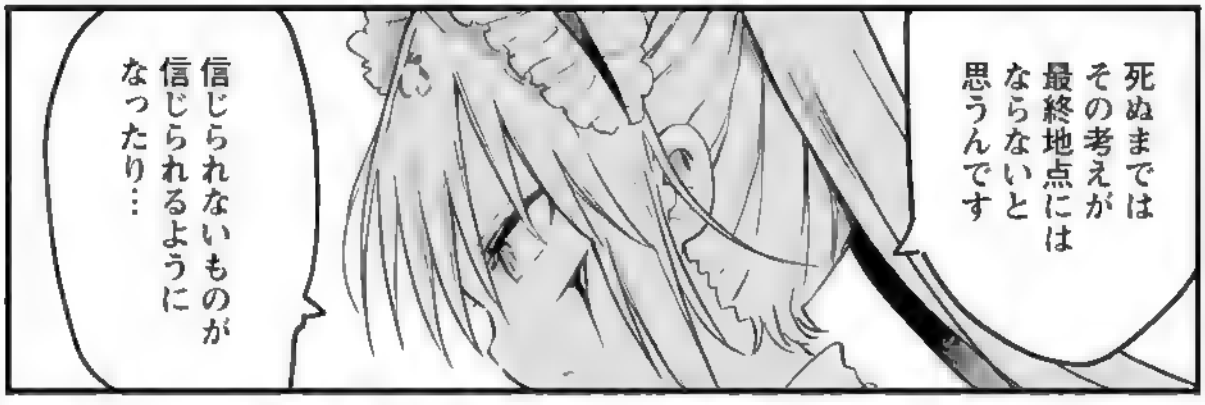
スゥゥ…
!


あなたの
魔法の器を
吸わせて
います…
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
もっとも…
すでに
ほとんど
残っていなかった
ようですが…
チッ

カンナが
未完成で
持ってきた
からな…
俺が
補った
そこまで
読んでいたなら
たいした
ヤツだな…

…カンナは
父親を見捨て
なかった…
そして
小林さんは
カンナを
諦めなかった
そういう
想いにあなたは
負けたんですよ
ヨシカワ…
陳腐な
もんだ…
そんなもの
何かひとつ
叶わないだけで
信じられなく
なるというのに

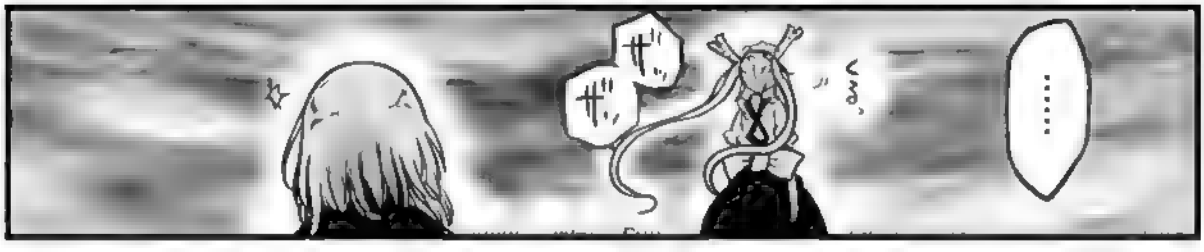
それも
また…
道程(どうてい)なの
でしょう
何？


死ぬまでは
その考えが
最終地点には
ならないと
思うんです
信じられないものが
信じられるように
なったり…

考えは
変わって戻って
また変わって…
命が終わるまで
続いていく…
嘘だ！

ドラゴンが そんな
簡単に考え方を
変えるわけ
ないだろうが！
奴らは想いなど
知ろうとしない…
戦いたい
からだ！
キムンカムイが
娘を顧(かえり)みなかった
ように…！

いつものように
見下して
いればいいだろう!?
下等で
愚かな人間
だとよぉ!

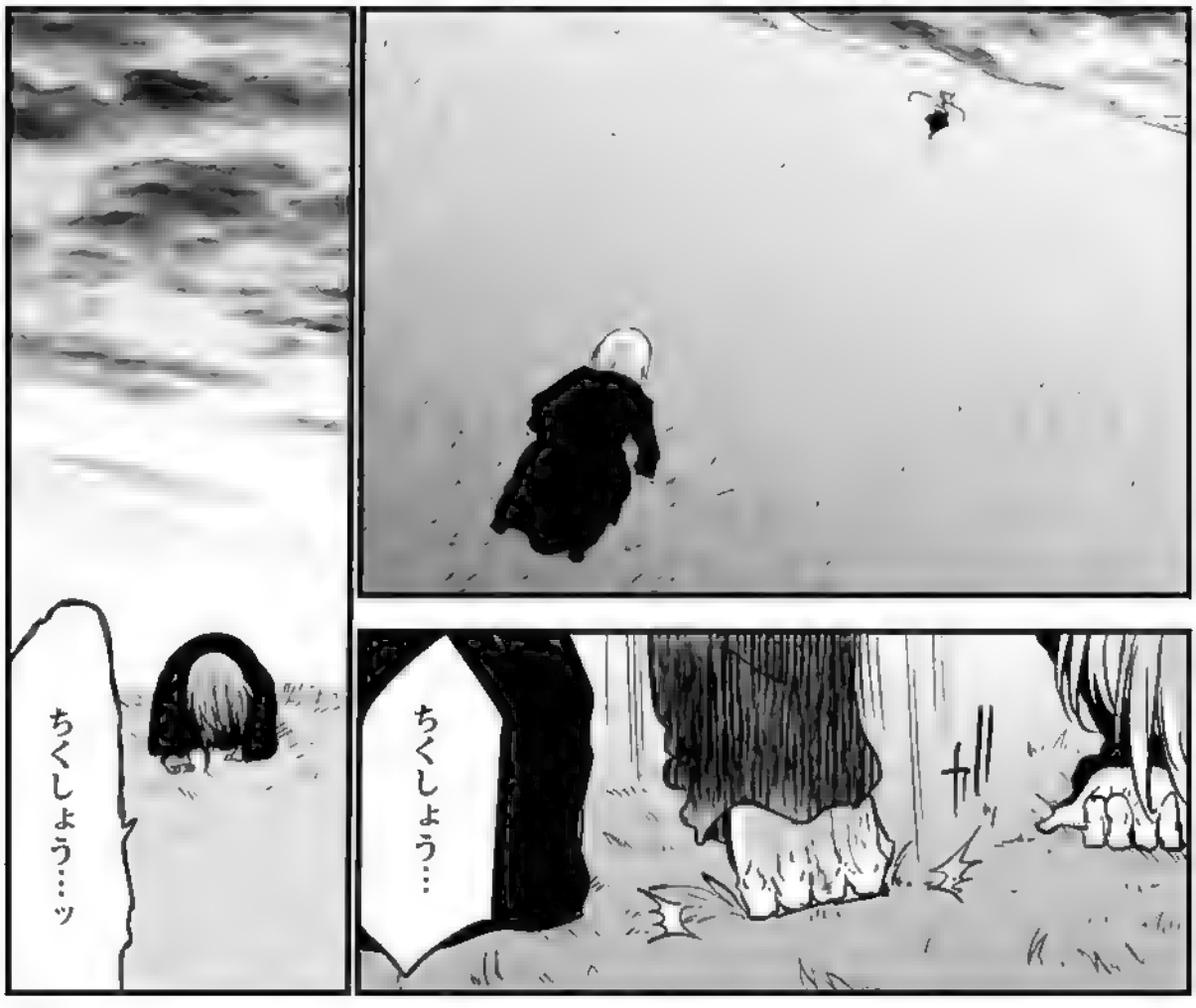

……
ザッ
ザッ
くるっ

待て!
どこへ行く!
トドメを
刺さないのか!?
ザッ
ザッ
ガクン
沙汰は
キムンカムイに
任せます
あなたは もう
動けないし
魔法は二度と
使えない
それに…

小林さんなら
殺すなと
言うでしょう
から

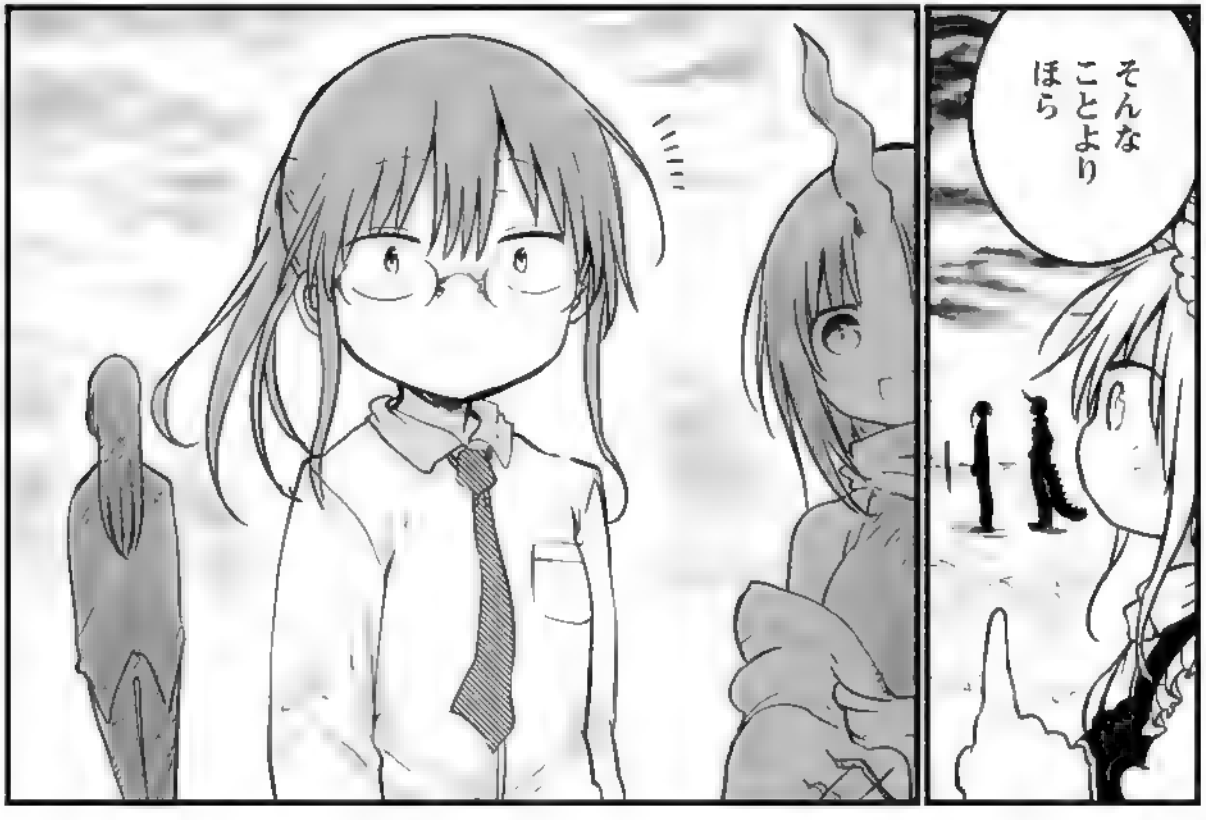
小林…
ヤツが何だと
いうんだ…
何なんだ
あいつは…
何って
私の考えを
変えた
きっかけの方
ですよ
長い長い命の
道すがらにあった
きっかけ…

あなたも…
そんな人に
出会えると
いいですね


ちくしょう…
ちくしょう…ッ

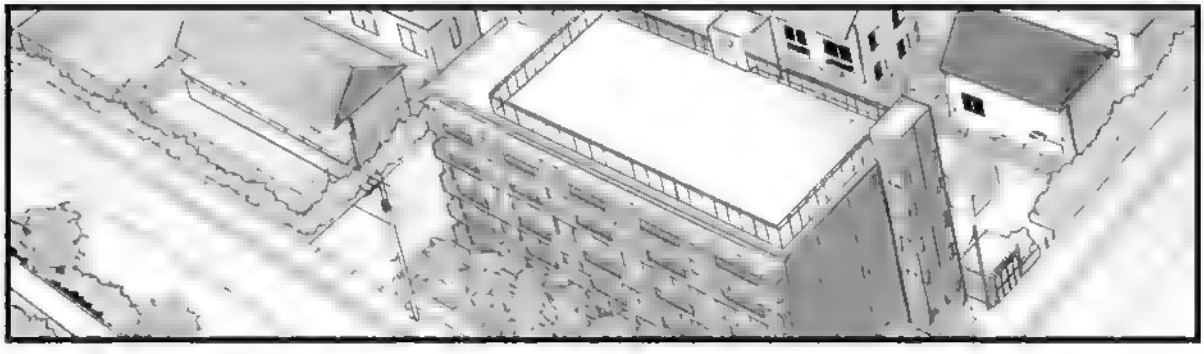
!
やぁ
…傍観勢は
つらいですね
何の
ことかな？

いえ…
今回のことで
気持ちが少し
わかりました
そう…


そんな
ことより
ほら

帰りますか！
うん…
ん？
あれ？

カンナは？



うえええええん

カンナ
ざあああああん!!

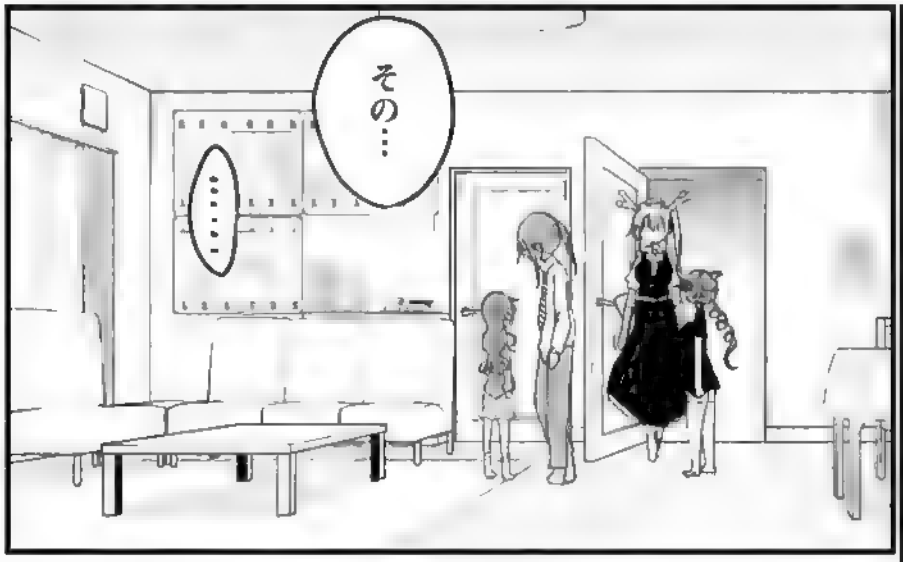
才川
落ち着け！
むにむに
イルルざん
カンナざんは
どごべいっだ
のぉぉぉぉぉ

きっと
帰って
くるさ
おー
よしよし
本当？
それまで
ここに
泊まってて
いい？
えっぐ
えっぐ
たぽっ
それは
小林に
聞いて
みないと…
うおおおおおん!!
たぱぷぅ

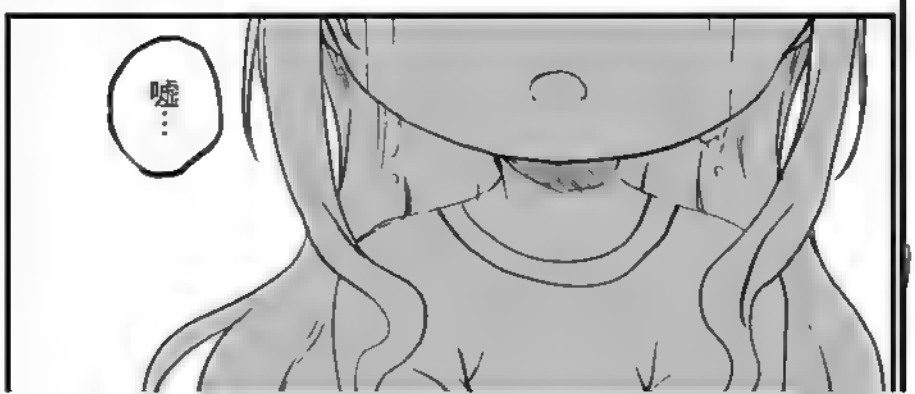
ガチャ
おっ
ただいま
イルルー
!!
留守番
お疲れ……

カンナさぁぁん!!
ブルブル
びくっ!!
うおお!?
才川さん？
ずっと
この調子
なんだよ
うおおお
うん…
お疲れ
イルル

それで
カンナは…？
そうよ！
カンナさんは
どこ!?


その…
……

えっと
それは…

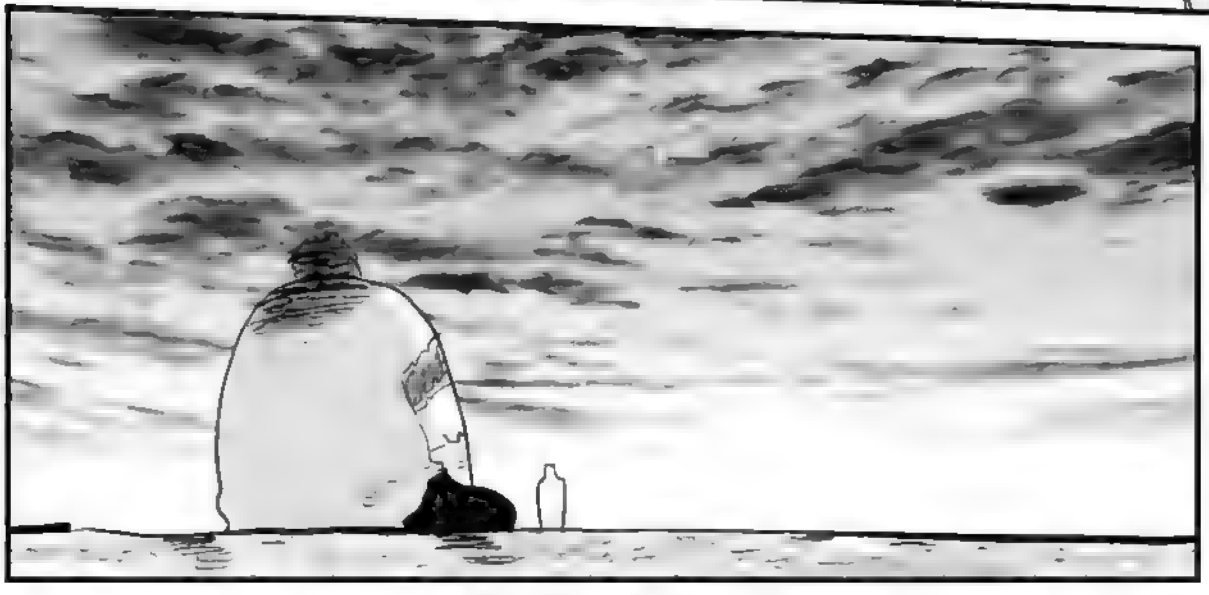

嘘…

嘘よ!!
だって
カンナさん
言ったもん!!
帰るって!
帰ってくるって!!
言ったもん!!
あ…
ポーン
!?

俺はずっと
ここにいる
今しか一緒に
いられない
ヤツと過ごせ
時々 会いに
きてくれても
いいし…
時々 会いに
いっても
やるからよ
ガチャ

…いいの？
いいの…
信じてる
一緒にいてもいい？
……おかえり

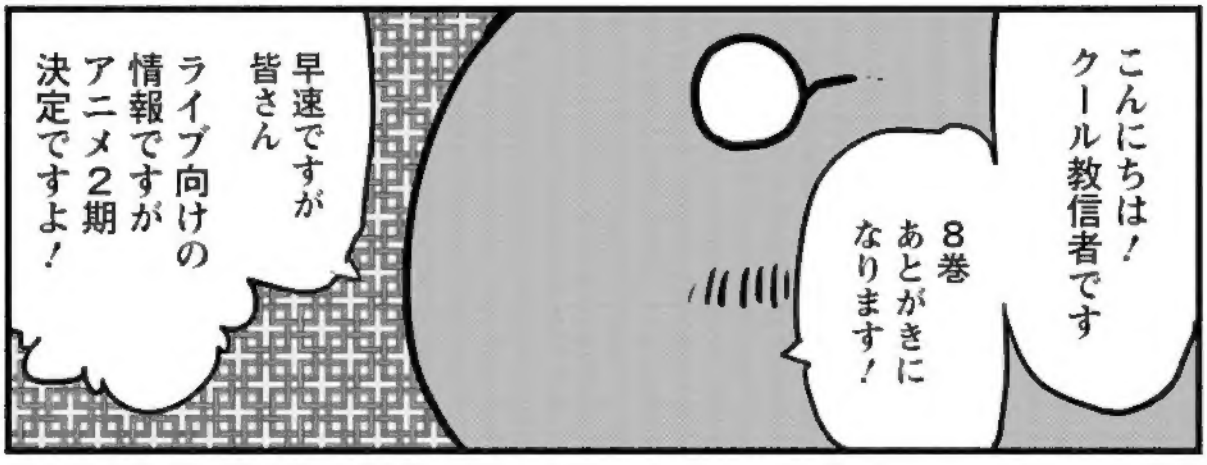
ただいま



おまけ

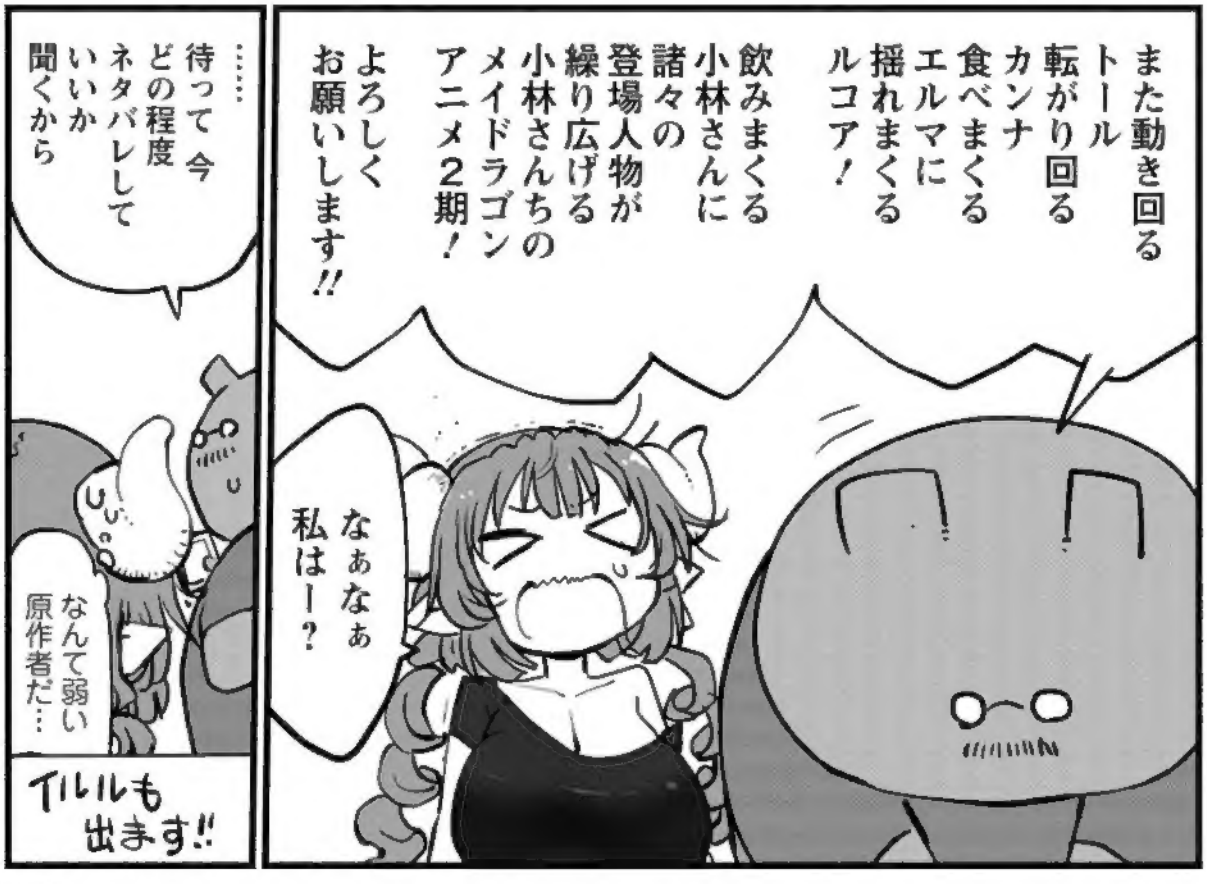
カンナの為に
ここまで
やれちゃうなんて…
ブーーー
正直 嫉妬(しっと)
しちゃい
ます…
トールの為なら
どこまで
やって
くれますか？
有給
取るよ

あとがき


こんにちは！
クール教信者です
8巻
あとがきに
なります！
早速ですが
皆さん
ライブ向けの
情報ですが
アニメ2期
決定ですよ！

本当か！
私も本編に
出れるのか!?
ふはは
アニメの
ネタバレは
禁止だぁ
クソが

いや 私もね
まさか2期して
くださるとは
思わなかったですよ
引き続き
原作者として
貢献させて
頂きますぞ！


また動き回る
トール
転がり回る
カンナ
食べまくる
エルマに
揺れまくる
ルコア！
飲みまくる
小林さんに
諸々の
登場人物が
繰り広げる
小林さんちの
メイドラゴン
アニメ2期！
よろしく
お願いします!!
なぁなぁ
私はー？
……
待って 今
どの程度
ネタバレして
いいか
聞くから
なんて弱い
原作者だ…
イルルも
出ます!!

アシスタント「 おかいす様 」「ジョヴァンニワークス様」

『小林さんちのメイドラゴン』の
作画 クール教信者 ×
『異種族レビュアーズ』の
原作 天原

原作サイト
ユニークユーザー数
550万人
超ッ!

神・人・魔物の800年ぶり生存闘争、開幕ッ!!!

平穏世代の韋駄天達

IDATEN

1

[原作] 天原 [作画] クール教信者

YOUNG ANIMAL COMICS/B6判 本体600円+税 発行/白泉社

大好評発売中!!!!

月刊アクション発コミックスを
無料で試し読み!!

専用アプリをダウンロードして
読み取り用画像に「かざす」だけ!

※スマートフォン、タブレット端末のみ対応
（一部未対応の機種もあります）

読み取り用画像

読み取りには専用アプリ(無料)
のダウンロードが必要です

詳細につきましては、特設ページ
<http://webaction.jp/appDL/>をご覧ください。
左のQRコードを読み取るか、WEBコミックアクション
TOPページのバナーからも飛べます。

初出「月刊アクション」2018年4月号～2019年1月号

ACTION COMICS

小林（こばやし）さんちのメイドラゴン⑧

2019年 2月12日　第1刷発行

著　者　クール教信者（きょうしんじゃ）
©coolkyousinnjya 2013
発行者　島野浩二
発行所　株式会社 双葉社　〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3-28
電話03-5261-4818（営業） 03-5261-4804（編集）
装　丁　LIGHTNING
印刷所　三晃印刷株式会社
製本所　株式会社宮本製本所

落丁・乱丁の場合は送料双葉社負担でお取り替えいたします。「製作部」あてにお送りください。
ただし、古書店で購入したものについてはお取り替えできません。
［電話］03-5261-4822（製作部）定価はカバーに表示してあります。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・転載は著作権法上での例外を除き
禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、
たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

WEBコミックアクション　http://webaction.jp
双葉社ホームページ　http://www.futabasha.co.jp
（双葉社の書籍・コミック・ムックが買えます）

この物語はフィクションです。登場人物・団体等はすべて実在のものとは関係ありません。

ISBN978-4-575-85267-7　C9979